

## 掛川市小中一貫教育推進基本方針（案）に関するパブリックコメント

- 1 実施期間 平成29年5月10日（水）～6月12日（月）
- 2 意見数（人数） 175件（女性27人・男性37人 合計64人）
- 3 回答者年齢構成

| 年代    | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 割合（%） | 6%  | 19% | 37% | 25% | 13% |

4 意見の内訳

| 項目                       | 件数 | 項目                                | 件数  |
|--------------------------|----|-----------------------------------|-----|
| はじめに                     | 10 | イ かけがわ型小中一貫カリキュラムの研究              | 3   |
| 1 小中一貫教育が求められる背景         | 6  | リ 子どもの発達段階に応じたなめらかな接続             | 4   |
| (1) 学園化構想第2ステージの実現に向けて   | 0  | エ 発達段階に応じた教科担任制                   | 10  |
| (2) 社会性の育成               | 8  | オ 英語教育の充実                         | 2   |
| (3) 学校間の縦の接続             | 11 | カ 道徳教育の充実                         | 3   |
| (4) 子どもの発達段階             | 1  | キ ICT活用の推進                        | 5   |
| (5) 地域の教育力を活かした市民総ぐるみの教育 | 1  | ク 家庭・地域とつながる体験活動の充実               | 2   |
| (6) 小中一貫教育とコミュニティ・スクール   | 3  | ケ 次期学習指導要領への対応                    | 0   |
| 2 掛川市の現状と課題              | 3  | (4) 学園における学校配置の適正化及び学校施設の複合化・多機能化 | 5   |
| (1) 児童生徒数の変化と小・中学校の学級数   | 3  | (5) 小中一貫校における学校施設の在り方について         | 2   |
| (2) 学校の適正規模・適正配置         | 16 | (6) かけがわ型小中一貫教育構想図                | 6   |
| (3) 学校施設の老朽化             | 9  | 4 新たな学校づくり実現のためのプロセス              | 2   |
| 3 掛川市小中一貫教育基本方針          | 0  | 5 用語解説                            | 0   |
| (1) 掛川市が目指す小中一貫教育のねらい    | 0  | 参考資料「小中一貫校における施設の在り方について」         | 7   |
| (2) 基本方針                 | 8  | その他                               | 8   |
| (3) 具体的な取組               | 1  | 自由意見                              | 34  |
| ア 目指す子ども像の共通理解           | 2  | 合計                                | 175 |

| No. | ページ | 項目     | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|--------|---|--|
| 1   | 1   | サブタイトル | <p>「学園化構想第2ステージ」とあるが、「学園化第2ステージ」又は「中学校区学園化構想」というフレーズを生かして「中学校区学園化構想第2ステージ」のどちらかであると思う。</p> <p>もし、あえて「構想」をつけるなら「学園化第2ステージ構想」となるはずだが、これは逆にわかりづらい。</p> <p>細かいことですが、3ページの1(1)も「学園化構想第2ステージの実現に向けて」となっているが、「構想の第2ステージの実現」という順番に違和感を感じる。あえて言うなら「第2ステージの構想の実現」だと思う。</p>                                      | 御指摘の点を検討いたします。   |
| 2   | 2   | はじめに   | <p>「はじめに」に書かれているように、私たちは「子供たちの未来のために」学校の在り方を考えていかなければならないと思う。よく「地域から子供の声が無くなるのは寂しい」という意見を聞くが、今回の市教委の方針は、中学校区を前提に考えているので、中学校区という「地域」から子供がいなくなる事ではないと思う。逆に、現状のままを維持しようとして、少子化の波に飲み込まれ、中学校区ごと、他の地域と学校統合しなければならなくなったらどうするのか。</p> <p>教育分野では、小学校区を「地域」ではなく、中学校区を「地域」として考えていく、それが学園化（保幼小中連携教育）の考え方ではないか。</p> | 今後の推進の参考意見とさせていただきます。  |
| 3   | 2   | はじめに   | <p>「子どもは未来の宝です。学校は地域の太陽です。」この言葉を行政としてどう具体化するのがまず問われると思います。しかし視点は、学校の「適正規模・適正配置」にいき、その理由が「多様な考えに触れ・・・切磋琢磨しながら・・・」となり、結果として小規模校の統廃合へと道筋ができていように感じます。</p>  | これからの社会を見据えたとき、子どもたちにとってどのような学校が良いのか、地域の皆様と共に考えて参ります。  |
| 4   | 2   | はじめに   | <p>子どもは、家族から幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校へと小さな集団の中で人として大切にされることを体で感じ・学び成長していくと考えます。「多様な考えに触れ・・・切磋琢磨しながら・・・」は、小さな集団でも可能ですし、何よりも一人一人が「大切にされている」と毎日の学校生活の中で感じる事ができるのが小規模校の良さだと思います。また、具体的に社会人となった各年代別の大規模校と小規模校で育ったそれぞれの声を知りたいと思います。この方針案を出す際の参考にされているのでしょうか。</p>   | 参考にした資料としましては、国の小中一貫教育に関するアンケート調査となります。これまでも一人一人を大切にされた教育に取り組んでおり、小中一貫教育を推進するにあたって同じように子どもたちのことを大切にして参ります。 |

| No. | ページ | 項目                   | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|----------------------|---|---|
| 5   | 2   | はじめに                 | 「学校は地域の太陽です」<br>今存する地域の学校が統合され、無くなれば、「地域の太陽」がなくなります。「小さくても学校」がなくなることは、益々地域を不活性化させ、人口減、光が消えることとなります。傾向として、人口減は現実です。生徒（子ども）も当然減少します。しかし、人口を地域で増やすことをなぜ本気で行わないのか。いつも疑問に思います。 | まず、9年間を見通した小中一貫教育を推進して参ります。その中で、学校の在り方については、地域の皆様と考えていきたいと考えております。  |
| 6   | 2   | はじめに                 | 適応するとはどのような状態を指すのか。適応できない子どもへの配慮はどうするのか。  | 変化する社会に対応するためには、一人の力だけで解決することは難しいものです。様々な人とのコミュニケーションにより、解決策を生み出すことや、新たな価値を見出すこと等により、これからの厳しい社会に適応していくと考えております。 |
| 7   | 2   | はじめに                 | WHOでは、「多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨しながら、資質や能力を伸ばして行く教育活動」ができる環境は、1学校100名以下が適切だと示している。実際にその研究結果がデータとして出ている。   | 日本の教育制度の中で、子どもたちにとってより良い学校の在り方を地域と共に考えて参ります。  |
| 8   | 2   | はじめに                 | 「教育が展開できる学習集団の確保が難しい学校が出てきています」とあるが、小規模校を指しているのか。その根拠はどのように立証したのか。そうであるならば、小規模校の実際の子どもたちの学力は低いということか。   | 1学年に数人しかいない学校があります。その子たちにも多様な教育活動を経験できるよう小中一貫教育を推進していきたいと考えます。  |
| 9   | 2   | 「小中連携教育」と「小中一貫教育」の定義 | 「小中連携教育」と「小中一貫教育」の定義に合わせれば、掛川市が学園化で進めてきた「保幼小中一貫教育」は「保幼小中連携教育」であり、なるべく早くこの言い方をきちんと区別することが大切である。そうしないと、今までの「連携教育」とこれからの「一貫教育」が混同されたまま話し合うことになり、市教委の方針の意図がしっかり伝わらない。         | 連携教育と一貫教育の区別が図られるよう、子ども育成支援協議会等を通して説明して参ります。  |

| No. | ページ | 項目                     | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|------------------------|---|--|
| 10  | 2   | はじめに<br>小中一貫教育が求められる背景 | 「中学校区学園化構想」、「子ども育成支援協議会」という言葉の説明の中で、「学校支援地域本部」としての一面については触れられていないので、触れた方が良いと思う。<br>また、後半で「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」が出てくるが、そこにつながる「学校支援地域本部」や「地域学校協働本部」の一節がないと唐突感が否めない感じがします。<br>法改正により、コミュニティ・スクールが努力義務となることについても触れ、方向性について触れてはどうでしょうか。                                   | 御指摘の内容について、できる限り反映して参ります。  |
| 11  | 3   | 小中一貫教育が求められる背景         | 各中学校区で縦のつながりを意識して9年間その子に寄り添ってきめ細かく指導していけるので、より一層推進してほしい。  | 御意見のとおりだと考えております。9年間の一貫した教育により、多くの教員の目で子どもを見ることができると考えます。  |
| 12  | 3   | 小中一貫教育が求められる背景         | 5つの目指す子どもの姿というが、一貫教育を社会に適応した人づくりではないのか。少人数校を全面的に否定し、安上がり人間づくりをする手法としか考えられない。  | 「教育大綱かけがわ」における5つの目指す子どもたちの姿は、子どもたちの未来のために何をすべきか、何ができるのか、という視点に立って定めております。<br>平成29年2月28日の、「掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会」からの報告書では、小規模校のメリット・デメリットについて検討されています。これらを基に、地域性を考慮しながら、地域の皆様と共に検討して参ります。 |
| 13  | 3   | 小中一貫教育が求められる背景         | 小中一貫教育が求められる背景として、「少子高齢化、グローバル化の進展などこれからの社会は、急激な変化が予想され、厳しい挑戦の時代を迎えようとしている」という認識の基にこれからの公教育の課題を挙げている。そして、「教育大綱かけがわ」には5つの目指す子どもの姿があげられているが、いずれも財界が求める新自由主義教育改革路線のもとでのグローバル人材育成に沿ったものであり、地域住民が真に求めている子どもの姿とは言い切れない。小中一貫教育の必要性は、地域の中から生まれてきたものではなく、新自由主義政策を進める行政側からのものである。 | 新しい社会にたくましく生き抜いていく子どもを育むためにも、小中一貫教育は大切な教育だと思います。御意見として伺います。  |
| 14  | 3   | 小中一貫教育が求められる背景         | 「5つの目指す子どもたちの姿を定めています」「これらの姿を実現するためには」という「定める」「実現する」という言葉は、子どもに対して、操作性、違和感を感じる。   | 目指す姿として記載しています。御意見として伺います。   |

| No. | ページ | 項目             | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|----------------|---|--|
| 15  | 3   | 小中一貫教育が求められる背景 | <p>本来1人1人の子どもには個性があり、将来の生き方の志向は百人百様でしかるべき。教育はその個性に優劣・良否の評価をするのではなく、それぞれの個性を認め、伸ばすために援助すべきだと思う。</p> <p>それでこそそのびのびとした、個性豊かな子供が育つのであって、官製の画一的な“目指すべき子供像”に向かって教育するのは根本的に間違っていると思う。</p>  | <p>学校教育は目指す子ども像や学校教育目標を定め、その中で一人一人を伸ばすための目標を決め一人一人を大切にされた教育を進めております。その一人一人を大切にされた教育は小中一貫教育を進めても全く変わることはございません。</p> |
| 16  | 3   | 小中一貫教育が求められる背景 | <p>「一貫教育」という言葉を聞いただけで、小中一貫校をつくると考える家庭、地域の方の声を耳にします。「一貫教育」で何をやるのか、どのようにやるのか。一貫校をつくるのか、つくらないのか。このような方法論がどうしても先行しがちな状況があるように感じられます。</p> <p>やはりまずは、一貫教育の原点、つまり目的の共有こそ重要ではないでしょうか。</p> <p>「教育大綱かけがわ」に「子どもたちの未来のために」という言葉が大きく掲げられています。「未来の子どもたち」という、誰も経験したことのない時代に厳しい社会を生きる子どもたちの姿を思い浮かべ、深く温かく思いやることの難しさと大切さを改めて思います。</p> <p>本指定研究をいただいたことに感謝しつつ、「未来の子どもたちの代弁者」として、未来の創造に向かって一生懸命取り組んでいきたいと思っております。</p>                           | <p>新たな時代に求められる教育活動の充実を図るためには、どのような学校の在り方が良いか、学校や地域の皆様と共に検討して参ります。御意見として伺います。</p>                                   |
| 17  | 3   | 社会性の育成         | <p>私自身がすでにボランティアとして数年前から地区の小学校と中学校に出入りしています。また、地域コーディネーターさんの御尽力により、小学校の学習活動が内容の濃いものになっている事も数年前から一保護者目線で見ています。ただ、ここで疑問に思うのが、人材募集に対して、「積極的に関わる大人、保護者」と「無関心な大人、保護者」の間にある温度差。諸般の事情はあるとは承知していますが、断る理由を探したり面倒くさがっている保護者がいるのも事実です。その姿を何らかの形で見聞きし察している子どもたちに、「年長者を敬う」ことを伝えていけるものなのか、一抹の不安があります。一部の協力者や有識者だけが真摯に取り組もうとしても、その対象になる子どもたちを取り巻く大人（保護者、またはその親族）が真逆の態度であったとするならば、果たしてこの取組に意味があるのか、教育環境の充実をかなえられるのか、それをどうクリアするのか知りたいです。</p> | <p>子どもたちはボランティア等取り組んでくださる方に対して、感謝の気持ちを抱いております。子どもを通じて、保護者に伝えること、そして、取組の情報発信をしていくことにより、改善を図っていきたくと考えております。</p>      |

| No. | ページ | 項目     | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|--------|---|--|
| 18  | 3   | 社会性の育成 | 小学生にとっての身近な年長者の役割を、中学生が担うことができるとあるが、これが小学生の高学年の成長させるチャンスを奪い、責任感などない12歳前後の子どもを作ってしまう。小学生の高学年にしっかり成長させて、中学生にさせるべきである。                                   | 小中一貫教育を推進するにあたり、中学生との関わりが増えることで、一番身近な年長者となる中学生からも学ぶことが多々あります。小学校高学年における成長のチャンスを奪うのではなく、中学生と関わることで成長できる部分も多くあると考えております。また、教育段階の区切りを明確にすることにより、それぞれの段階での最上級生として責任感等のリーダー性を発揮する場を設定するよう努めて参ります。 |
| 19  | 3   | 社会性の育成 | 中学生が、豊かな人間性や社会性を育みながら、個々の良さや能力を伸ばしていき、とあるが、それは小学校でしっかりと成長したからこそそのステップアップであって、小中一貫にして小学生の高学年時になっても上級生に頼り切った生活をした生徒が、中学生になっても、社会性を育む程度が低くなってしまう。        | 子どもたちの発達段階を考慮して、社会性を育て参ります。御意見として伺います。   |
| 20  | 3   | 社会性の育成 | 地域コーディネーターが学校に参画することは、地域の教育力を活用しやすい良いシステムだと思います。  | 地域コーディネーターの支援の下、学校と地域が連携協力できる体制を強くし、地域の教育力を生かして参ります。   |
| 21  | 3   | 社会性の育成 | 地域コーディネーターにより活動の内容・質が大きくなりつつあるように思う。地域コーディネーターの選出及び育成も大事なのではないかと形だけになってしまうと思われる。  | 市としては、年2回の地域コーディネーター会議や、県の研修会への参加を呼びかけ、資質向上を図って参ります。   |
| 22  | 3   | 社会性の育成 | 地域コーディネーターの決め方にも、基準を定めた方がよい。場合によっては、地域に適任者がいない場合、親がコーディネーター！って事にもなり兼ねないため。  | 各地域によって実情が異なるため、子ども育成支援協議会と話し合いながら、地域コーディネーターを選任して参りたいと考えます。   |
| 23  | 3   | 社会性の育成 | 小学校では、1～6年生まで異学年の子どもと過ごすことで、自然と学年の大きい子が小さい子の面倒を見るようになります。中学に行っても同じ地区内ではそのつながりが見られるので、そのつながりを広く強く、また地域の方までその輪が広がっていくことで、同じ方向性を以てより社会性が育成されていくことと思いました。 | 子どもに思いやりや社会性を育てる1つの方法として、今後も異学年交流を大切に参ります。   |

| No. | ページ | 項目              | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|-----------------|--|--|
| 24  | 3   | 社会性の育成・子どもの発達段階 | <p>小学校では6年生が最高学年として大きな役割や責任を担う場面が多く、それが子どもたちの責任感やリーダーシップを育成する機会になっている。その機会は保障されたい。</p> <p>その最上級であった子どもたちが中学生になると、1年生として中学の教員たちからも最下級生扱いになることもギャップになる。</p>                        | <p>様々な中1ギャップがありますので、少しでも軽減していきたいと考えております。</p>  |
| 25  | 4   | 学校間の縦の接続        | <p>中1ギャップによるいじめなどが小中一貫で改善出来るという考えは短絡的過ぎないでしょうか？それが防げないような教育資質の改善も同時に検討すべきでしょう。</p> <p>逆説的に考えると、非行化した中学生が小学生を悪しき方法に引っ張っていくという懸念もあります。</p>   | <p>小中一貫教育の取組においては、進学の際、小中学校における学習指導や生徒指導の共通化を図り、生徒が体験する段差を小さくしていきます。接続を円滑にすることにより、早期に不登校やいじめ、問題行動等の発見及び解決につながると考えております。</p> <p>また、子どもたちに対して、9年間の系統的で継続的な支援を行うことが必要であり、教職員が9年間を見通した研修を深めることにより、教育の質の向上を図って参ります。</p> |
| 26  | 4   | 学校間の縦の接続        | <p>「中1ギャップ」を解消する効果は、他の自治体等多少の効果はあるが、小中一貫の弊害である人間関係の固定化がデメリットではないかと思う。</p> <p>例：不良児が小中一貫になることでつながりやすくなり、いわゆる不良グループができやすくなる。</p> <p>例：見えないいじめが9年続く可能性がある。</p>                      | <p>小中一貫教育を推進することにより、小中学校の教職員の多くの目で子どもたちを温かく支援していきたいと考えております。</p>   |
| 27  | 4   | 学校間の縦の接続        | <p>小中の先生方が交流することで、9年間が見通せ、各学年で付けたい力がより具体的に見えてくるように思います。例えば、中学では毎日書く日記。小学校では大規模校であるためか、毎日の日記を書く力を育ててもらえず、うちの子は大変苦労しました。また、中学では読書感想文を原稿用紙5枚書きます。そのための力を小学校で育ててもらっていたかと思うと疑問です。</p> | <p>これまでも、学園化構想事業の中で、小・中学校の教員が合同で研修を深めてきております。小中一貫教育を推進するに当たり、さらに相互の研修を深め、教員の質を高めるよう努めて参ります。</p>  |

| No. | ページ | 項目       | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|----------|---|--|
| 28  | 4   | 学校間の縦の接続 | 小学校から中学校へ進学するに当たって、周囲の環境の変化があると思いますが、同じ中学の学区の小学校の交流が、小学校6年間を通じてあると、中学へ上がったときに知人が増えて安心するのではと思います。6年間で気の合う友達、苦手な友達も出てくるとは思います。それも子どもたちにアンケートを採るなど工夫ができると思います。   | 小中一貫教育を進めるに当たり、小中一貫カリキュラムの研究や小学校間の連携教育をこれまで以上に推進していきたいと考えております。  |
| 29  | 4   | 学校間の縦の接続 | 「中1ギャップ」対策の縦の連携は非常に大切だと感じていますので、この点については是非とも早い段階で実現したらと思っています。少し観点はずれのかもしれませんが、子どもの進学・進級に伴う支援の接続を思うとき、「発達に課題のある子ども」の移行支援も拡充してもらえたらありがたいと考えています。彼らこそ、環境の変化やなじみのない事象への対応には時間を要するので、過去に在籍していた学校と情報の共有を必要とするのではと思います。小中一貫教育を推進していく中で、現場に関わる諸先生方の中で、情報の共有と連携ができることが、不安を抱える子どもたちの重荷を払うすべであると考えます。 | 中1ギャップの問題は喫緊の課題であると認識しております。小中一貫教育を推進することにより、小中学校の教職員の乗り入れ授業等が可能となり、多くの目で子どもたちを温かく支援していくことが可能であると考えています。特別な支援を要する児童が進学する際、これまでも小学校と中学校で情報共有をしてきておりますが、教員が日頃の子どもの様子等を見る機会が増えることにより、さらになめらかな接続が期待できます。また、保護者も、小学校の教諭と中学校の教諭両方と相談しやすくなるため、不安の解消につながると考えております。 |
| 30  | 4   | 学校間の縦の接続 | いじめ、不登校を初めとするものの本質は、行き届かない教育、親の責任が大きいところにあると思います。私は、この問題は、逆に統合教育を進めれば、増加すると思います。個々の問題として掘り下げ考えるべきだと思います。  | これまでも、個に応じた教育を推進してきておりますが、小中一貫教育を推進することにより、多くの教員の目で子どもを見ることができ、より個を大切にできると考えております。   |
| 31  | 4   | 学校間の縦の接続 | 自分で考え判断し、責任ある行動をとれる子ども、主体的に集団や社会に関わり、社会に役立つ生き方を目指す子どもを育てていくためにも、教育現場において、保幼小中の「縦の接続」や、家庭地域、学校支援ボランティアの方々等、地域の教育力を生かした「横の連携」を大切にしていくことは、とても重要であると考えます。学校、家庭、地域社会が一体となって、子どもたちの健やかな成長を支援していくために、掛川市小中一貫教育推進基本方針は大きな意味のあるものと考えます。  | 小中一貫教育の推進により、縦の接続と横の連携を大切にして参ります。  |

| No. | ページ | 項目       | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|----------|--|---|
| 32  | 4   | 学校間の縦の接続 | 不登校の子どものうち、約6割が発達に何らかの凸凹があるといわれているが、掛川市の個別の支援計画は、どのように、又どれくらい通常学級で実施されているのか知りたい。また、系統的で継続的な支援とはどういう支援なのか。今はそのような支援が行われていないのか。  | 今までも、発達に障がいがあると思われる子どもたちには、保護者の了解を得て、支援計画を作成し、支援しております。小中一貫教育に取り組むことにより、今以上に中学校の教諭と小学校の教諭との情報交換がなされ、一人一人の子どもに応じた支援を行えると考えております。 |
| 33  | 4   | 学校間の縦の接続 | <p>「全国的傾向として、小学校から中学校への進学する際の環境変化がきっかけとなり、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが増加したりするという、いわゆる『中1ギャップ』が問題となっている」とあるが、昭和と最近のいじめや不登校のデータの取り方や学校の認識に大きな違いがあり、不登校やいじめが最近増えたなどとする捉え方は、一部の学者の都合の良いデータでしかない。昭和の方がいじめは酷くたくさんあったが、『学校が見ぬふり』『もみ消し』『内部で収めていた』現実や、今でいう不登校は、『家の教育が悪い』『本人の気持ちが弱い』『生活の乱れ』などという形で、数に上がっていきなかつたはずである。掛川型なんかを謳うのであれば、この不適切なデータを引用すべきでないとする。</p> <p>もし、「中1ギャップ」が有るとして、小中一貫で解消できたとしても、「高1ギャップ」を大量に生む環境を作るだけであって、「中1ギャップ」という問題の先延ばしでしかない。今の小中では、先輩後輩の人間関係を排除した教育がされているが、高校では社会人を育成する立場から社会が要求する先輩に対する態度や言葉遣いを学校生活の中で強く要求される。今現在においても高校側に「高1ギャップ」が存在し、高校生活になじめない生徒が多くいて高校教員が真摯に逃げずに対応しているのに、なぜ「中1ギャップ」を真摯に受け止め対応しようとしないのか理解できない。「中1ギャップ」の出た生徒は、その生徒の持つ今現在の課題がはっきり認識できたのであるから、この時に教育機関としてしっかり対応すべきであり、小中一貫という名のもとに「中1ギャップ」から逃げるべきでない。</p> | 中1ギャップや中学への不安の解消は大切なことだと考えており、現在の連携教育でも重要視しております。今後も中1ギャップの緩和には真摯に対応して参ります。   |
| 34  | 4   | 学校間の縦の接続 | <p>中学校区学園化構想として保幼小中連携教育の強化ということで義務教育の9年間、先生方が密になり縦の連携をとって下さっていたと思います。</p> <p>現在、幼稚園、小学校に子供が通わせてもらってますが、地域の方や幼・小間でのつながりはとても感じます。</p> <p>中学校についてはまだあまりよくわかりませんが、中1ギャップの問題が全国的にもあり、掛川市でも小学校高学年、中学に入り不登校が増える同様の傾向があるということから、子供の成長に応じたなめらかな接続ができる様にす為にも義務教育9年間を見通した支援の大切さを感じました。</p>  | 今まで取り組んできた中学校区学園化構想を基本に、小中一貫教育を推進していきたいと考えております。  |

| No. | ページ | 項目                   | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|----------------------|---|--|
| 35  | 4   | 学校間の縦の接続             | <p>中学校で不登校やいじめの増えている要因を「中1ギャップ」としているが、文部科学省の「問題行動調査」（2014年）によれば、中学1年生不登校生徒の半数は小学校4～6年生のいずれかで、30日以上欠席経験を持っているという結果が示されており、同じ調査の中で、いじめの被害経験率は、小学校時代の方が中学校時代の方よりも高いことが明らかになっている。中学校入学後に不登校の増加などの問題が顕在化するとしても、その問題は小学校時代にすでに始まっていると考えられる。小中一貫校にすることが、「子どもの成長段階に応じながらなめらかな接続ができるようになる」ということにも疑問がある。2013年度に実施された「小中一貫教育の総合的研究」（代表梅原利夫和光大学教授）の結果から見ると、小中一貫校の小学4～6年生は、自身や自己価値、友人関係、学校適応感、疲労、学業のどの項目にも共通して、非一貫校の小学4～6年生と比較してネガティブな傾向が示されている。小学校6年生が最上級生としてリーダーシップを発揮し、自治的な活動の中心となる経験などが、成長の節目として重要な意味を持っていると考える。</p> | <p>御指摘のとおり、子どもの発達段階に則した体験や育ちは重要です。また、各学年においても適度な段差となるよう、小中一貫教育を通じて取り組んでいきたいと考えております。</p> |
| 36  | 4   | 子どもの発達段階             | <p>9年間の子どもたちの発達を見通した「小中一貫カリキュラム」の編制が必要であることは言うまでもないことだが、現在の「6-3制学校体系」を変更し、新しい学校教育体系を作る必要があるのかどうかは、もっとも慎重な検討が必要と考える。子どもの身長・体重・性的発達などでは、成長の早期化・加速化がみられる。その反面、体力や身体能力の低下も見られ、特に背筋力の低下は、「2足歩行」という人間の特性に影響する深刻な問題という指摘もある。アドルフ・ボルツマンの「生理的早産論」によれば、人間は他のほ乳類に比べ、約1年早く生まれ、未熟な状態から成熟していかなければならない部分を残して生まれ、その後発達していく存在であると論じられている。「早熟化」が人間の発達にとっては退化現象であるという考え方もある。また、教育現場では、子どもたちの忍耐力の低下も実感されているところである。子どもの発達段階についても十分な検討が必要である。</p>   | <p>小中一貫教育では、学園の区切りは子どもの成長や発達段階、付きたい力などから慎重に検討して参ります。</p>                                 |
| 37  | 5   | 地域の教育力を活かした市民総ぐるみの教育 | <p>何よりも教育のベースは家庭にあると考える。仕事で夜遅くまで両親不在の家庭など子どもに目の行き届かないこともある。労働条件の改善も。</p>  | <p>今後も市民総ぐるみの教育に努めて参ります。</p>   |

| No. | ページ | 項目                 | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|--------------------|---|--|
| 38  | 4   | 小中一貫教育とコミュニティ・スクール | 文科省指針では、学校運営協議会が学校運営について教育委員会または校長に対し、学校運営に関する意見を述べる事ができるとある。しかし、その協議会の意見を多く採用した結果、権限が大きくなった場合、どう是正できるのか。モンスターペアレントが目立つ中、その人々が協議会に入ったとき大変不安である。   | コミュニティスクール導入の際には、様々な立場の方に入っただき、よりよい学校運営協議会となるよう努めて参ります。  |
| 39  | 4   | 小中一貫教育とコミュニティ・スクール | コミュニティ・スクールが具体的でなくよくわからない。  | 用語解説に記載のとおり、学校・保護者・地域が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みのことで |
| 40  | 4   | 小中一貫教育とコミュニティ・スクール | 子ども育成支援協議会の運営方法は、各学園でそれぞれ異なるものと思います。協議会によっては、文部科学省の事業「学校支援地域本部事業」の推進が主たる目的となっている場合が多いのではないかと考えられます。それなのに、理事として参加しているメンバーは、この地域コーディネーターの活動には直接関わりの無い人ばかりで、会議では報告を伺う、といった様相です。<br>ここでは、学校運営協議会の性格を子ども育成支援協議会に含める方向が示されています。子ども育成支援協議会が、こども園、小学校、中学校、家庭、地域でどんな教育をしていくべきかを議論する場となるとよいと思います。 | 御指摘のとおり、学校運営協議会の性格を含む子ども育成支援協議会において、地域での教育の在り方について議論する場になるよう、今後進めていきたいと考えております。                    |
| 41  | 5   | 掛川市の現状と課題          | 児童生徒数の減少や学校施設の老朽化について、数値化して表されており、とてもわかりやすい。小中一貫教育の必要性和共に、掛川市の現状について地域に知ってもらう必要があると思う。  | 地域との話し合いの場において、丁寧に情報を提供して参りたいと考えております。御意見として伺います。  |
| 42  | 5   | 掛川市の現状と課題          | 単学級の学校が増えた今、今後の小学校のあり方、それに見合った教育とはどうあるべきか真剣に考えたいと思いました。   | 小中一貫教育を進める中で、学校の適正規模、適正配置においても、地域の方々と意見交換して参ります。   |

| No. | ページ | 項目                 | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|--------------------|---|--|
| 43  | 5   | 掛川市の現状と課題          | 26年間で児童生徒が約3割減っていることや今後の推計から、複数学級となるように学校を工夫することが必要だと感じた。また、老朽化と逼迫した財政状況もよくわかった。  | 地域との話し合いの場において、丁寧に情報を提供して参りたいと考えております。   |
| 44  | 5   | 児童生徒数の変化と小・中学校の学級数 | 1学年1クラスの小学校が11校もあるとは驚きました。ただ小さい学校は廃校吸収するだけでなく、ぜひ、地域で子どもたちを引き受ける、育てると言うことを大切に地区の学校に通えるようにしてほしいです。  | 今回の推進基本方針において、掛川市の特色である中学校区学園化構想の枠組みを基本に進めていくこととしております。そのことにより、地域という考えを小学校区から中学校区へと広げることをお願いしたいと考えております。   |
| 45  | 5   | 児童生徒数の変化と小・中学校の学級数 | 児童生徒数は大きな減少は見られない。市全体の人口減や高齢化についても示してほしい。   | 平成29年2月28日の「掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会」からの報告書において、掛川市の人口推移が記載されております。   |
| 46  | 5   | 児童生徒数の変化と小中学校の学級数  | 今後の推計において、数年先の見込みが示されている。この先将来を予測するのは難しいが、市の第2次総合計画の中では、年少人口が増加する将来像が示されている。様々な見方があると思うが、長期的展望も必要に思う。10ページで若干触れられているが。  | 平成29年2月28日の「掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会」からの報告書では、付属資料に平成28年4月7日現在の1歳から15歳までの児童生徒数の実数値が記載されております。将来を予測することは難しいですが、これまでの児童生徒数の推移と現状の人数の長期的な展望を踏まえ、学校の在り方について地域の皆様と共に考えて参ります。 |
| 47  | 6   | 学校の適正規模・適正配置       | 人口12万人の掛川市において小・中学校31校は、大変多いと感じています。他市以上に十分な教育予算を確保しているからこそ維持できると思いますが、将来の維持継続には不安があります。老朽化した校舎等、施設の建て替えを進めながら統廃合を進めていく必要があると考えます。そのような面からも、小中一貫校の新設を推進すべきであると思います。 | 施設の老朽化、維持管理費については避けて通れない問題です。子どもたちを第一に考えてより良い手法を地域の皆様と検討して参ります。  |

| No. | ページ | 項目               | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|------------------|--|--|
| 48  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 一定の集団規模にすることを、ことさら強調していく考え方は、ファシズムに行く可能性があると考えます。一人一人の能力を一つ一つとらえきれぬ学校づくりが必要と考えます。  | 学校教育法施行規則第41条及び第79条において、学校規模の標準は、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされております。子どもたちが集団生活の中で多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨していくことで、一人一人の資質や能力を伸ばして行くことが望ましいと考えております。 |
| 49  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 小規模校はその良さがああり、地域に根ざしている。統廃合は慎重を期してほしい。   | 新たな時代に求められる教育活動の充実を図るためには、どのような学校の在り方が良いか、学校や地域の皆様と共に検討して参ります。   |
| 50  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 複数学級となるようにすることは理想的だと思いますが、実際には学区校舎など様々な観点から考えると難しいのではと思います。  | 地域により様々な状況がございますので、全市一律な対応は難しいと考えております。子どもたちを第一に考えて地域の皆様と様々な視点から検討して参ります。  |
| 51  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | グローバル化の時代、そして「英語教育の充実を提案している中、世界の「学校の適正規模・適正配置」と実際の1学級の児童数について知りたいと思っております。イギリス・フランス・ドイツ・スウェーデン・中国・インド・アメリカなどについて知りたいと思っております。アメリカが以前、統廃合により大きな学校にしたが、また、「小さな学校」に戻したと言うことも聞いていますがどうでしょうか。<br>世界的機関の「学校規模・適正配置」についてはどのようになっているのでしょうか。 | 日本の教育制度の中で、子どもたちにとってより良い学校の在り方を地域と共に考えて参ります。   |
| 52  | 6   | 学校の適正規模、<br>適正配置 | 一定の集団規模が望ましいことは理解できるが、配置については非常に難しい問題がある。<br>・通学についての距離、送迎、バス等<br>・現状より、より遠くへの通学となると、学校へのより近い場所への転居、子ども達若者が減り、より過疎化等が考えられる。  | 御意見の通り、大変難しい問題です。今後地域の皆様と十分な協議が必要と考えております。   |

| No. | ページ | 項目               | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|------------------|---|---|
| 53  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | <p>「多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨しながら、資質や能力を伸ばしていくためには、一定の集団規模が確保されていることが望ましい・・・複数学級となるように学校配置を工夫していくことが望ましい・・・」とあるが、疑問です。</p> <p>適性規模の定義が今回方針案の内容なのでしょう。規模の大小については、それぞれ長短ある。学校関係者もそれは認めている。一面的なことのみ強調されたこの方針案は、不可解である。また、表には小学校の単学級11校が示されているが、学力や人間的成長が劣るなどと云うことがあるのだろうか。自地区には、100人以下の小規模校が存在するが、きめ細かい指導を受けながら、意見発表も活発に行われ、充実した学校生活を送っている。この点は議論を深めることが必要に思う。</p>   | <p>新たな時代に求められる教育活動の充実を図るためには、どのような学校の在り方が良いか、学校や地域の皆様と共に検討して参ります。</p>   |
| 54  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | <p>平成20.3.26.「学校の適正配置等に関する基本的考え方」では、具体的に「100人以下の学校」となっています。今回は法令上、学校規模の標準は12学級以上」と変更されています。平成27.1.27文科省からの手引き書にも「法令上」を根拠にしています。国の指針の変更に伴ってだと思いますが、100人以下をやめた掛川市としての理由を聞きたいと思えます。</p>  | <p>法令は、学校教育法施行規則第41条及び第79条によるものです。100人以下は掛川市の「学校の適正配置等に関する基本的考え方」によるものです。基本方針に示したとおり、「可能な限り一学年に複数の学級が設置されるよう対策を講じます」とし、子どもたちがたくさんの中間で、より多くの考えに触れられるよう努めていきたいと考えております。</p> |
| 55  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | <p>学校の適正規模・適正配置については、学校教育法施行規則を根拠に12～18学級を標準としているが、行政的な視点からの適正規模であって、教育的観点から適正かどうかの検証は行われていない。掛川市内には12学級以上の小学校が9校に対して、6学級以下の小規模校が11校ある。それらの小規模校においては、地域との結びつきを生かして小規模校ならではの教育実践が行われている。子どもは人数が多いほど鍛えられるという「切磋琢磨論」にも疑問があり、学習集団としての適正規模も検討すべきであると考えます。</p> <p>掛川市の現状が「はじめに」で述べられているように「子どもたちが多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨しながら、資質や能力を伸ばしていく教育活動が展開できる学習集団の確保が難しい」という状況は断定できない。小中一貫教育の名の下に、小規模校を統廃合する教育リストラが進められるという危惧が大きい。統廃合によって「地域の太陽」である学校がなくなった地域は、一層少子高齢化が進行することは、掛川市の現状からも明らかである。</p> | <p>御意見として伺います。また、学校の在り方については、地域の実情に鑑みながら地域と共に考えて参ります。</p>   |

| No. | ページ | 項目               | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|------------------|--|---|
| 56  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 法令上とあるが、いつ作成された法令で、どのような検証があるのか。今後、急激な変化が予想される社会、少子高齢化社会、AIによるシステム化、移住移民問題など考えられる。<br>ハードからソフト化へ、より柔軟な思考、多様性を受け入れる思考力が必要になるこれからの社会に、昭和33年に作られた規則を標準と考えることに違和感を感じる。 | 標準規模については、昭和33年の改正で条文化されています。多様な考えを受け入れ、活用していく力を育てるため、多くの子どもたちと関わる環境を整備することは大切であると考えております。                |
| 57  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 単学級ではなく、複数学級が望ましいとあるが、その根拠はどこにあるのか。具体的な根拠をデータで示してほしい。  | 現在具体的なデータはありませんが、多くの単学級の学校では、人間関係の固定化などの課題を挙げております。   |
| 58  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 「築40年を超える校舎は～多くのコストがかかるものと予想されます」について、学校のみ具体的に細かい数字を出してほしい。  | 現在具体的なデータはありませんが、予想されるコストについては、各種設備の更新費用の他、雨漏り等補修の費用が考えられます。  |
| 59  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 単学級ではなく、複数学級となるように学校配置を工夫していくことが望ましいとあるが、通学距離なども考えると難しい面も多いのではないかと思います。  | 地域検討部会で新たな学校の話が議論となった際には、バスについても検討が必要と考えております。  |
| 60  |     | 学校の適正規模・<br>適正配置 | 小規模校は教職員一人あたりの児童数が少なく恵まれている。一方大規模校は一人あたりの児童数が多い。この点も大きな課題だと思う。また、空き教室の多い学校もあれば、教室のゆとりのない学校もあり、同じ掛川市でも児童一人にかかる経費は大きく異なる。<br>以上のことがらを加えることも検討していただきたい。               | 基本方針において、掛川市の特色である中学校区学園化構想を生かして、学園ごとの枠組みを基本に進めていきますので、御理解くださいますようお願いいたします。また、空き教室等については、今後の課題とさせていただきます。 |

| No. | ページ | 項目                                   | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|--------------------------------------|---|--|
| 61  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置                     | 賛成<br>単学級の学校から複数学級の学校へ移動し、子どもたちが多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨し合うために、今後単学級ではなく複数学級となるような学校配置について全市を挙げて早急に検討を始めるべきだと切実に感じる。   | 学校の在り方にも係る問題ですので、地域の皆様とともに検討して参ります。  |
| 62  | 6   | 学校の適正規模・<br>適正配置<br>学校施設の老朽化<br>について | 学校の適正規模・適正配置や学校施設の老朽化が、将来を担う生徒の学習環境や安全への配慮といった一番大切な課題のはずである。財政の観点から小中学校の統廃合は、理解している。統廃合には、地域の大反対があり、交渉が難航するのは当然である。この困難な作業からずっと逃げてきてきたから、今の、そしてこれからの掛川市が持つ課題であって、早急に解決すべきことである。これが本題であって、小中一貫教育構想で本題を濁すべきでない。小中一貫教育構想は、あくまで副題であって、本題を解決していく中での一つの方法論と捉えるべきであるし、掛川市民に本題をしっかりと伝え、議論させるべきである。これをしないと、母校愛の強い人が遺恨を持ち、協力が得られない。 | 教育委員会として、小中一貫教育は子どもたちの資質能力を育むものであると考えております。現在、財政課題と校舎の老朽化の問題もあり、総合的に捉える必要があると考えております。  |
| 63  | 6   | 学校施設の老朽化                             | ここまで小中一貫教育の目的等が縷々記載されてきたが、結局この章にある「施設規模の縮小」＝教育に金を掛けない 為の方策に過ぎないと読み取れる。添付された表にある通り、我々の先輩は終戦後の金も物もない時代から30年間で29校もの小中学校を建設してきたのに、その後の30年間ではたった2校で、必要な改築や補強もしてこなかった。<br>教育に対する行政の熱意の差は、歴然としていると言わざるを得ない。  | これまでも掛川市では必要に応じた学校施設の充実、維持修繕を行ってきました。しかしながら、多くの学校施設が老朽化し、更新を検討しなくてはならない時期を迎えています。今後は、児童生徒の推移・小中一貫教育における学校施設の在り方、市の財政状況も勘案する中で、施設整備についても地域の皆様と共に検討して参ります。 |
| 64  | 6   | 学校施設の老朽化                             | 総合的に縮小しつつ地域の活性化を図る必要があるとのことは良く分かるが、人口推移を見誤ることなく、又、それ以前に人を増やす、子を増やす努力がまず必要と考える。  | 地域により様々な状況がありますので、既存の中学校区を基本とし検討して参ります。  |
| 65  | 6   | 学校施設の老朽化                             | 施設の維持について費用が示され、財源の確保がいかに厳しいかはっきりした。  | 学校の在り方にも係る問題ですので、地域の皆様とともに検討して参ります。  |
| 66  | 6   | 学校施設の老朽化                             | 今後、児童生徒数が減少する中で、空き教室や使われていない校舎も出てくると思われます。計画的な施設運用をお願いします。  | 空き教室等の活用についても、今後地域の方々とともに検討して参ります。   |

| No. | ページ | 項目       | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|----------|--|---|
| 67  | 6   | 学校施設の老朽化 | 現状の施設は老朽化がはげしく、全ての修繕をするのは困難であるため、校舎を統一することはコスト面等を考え必要だと感じました。市の職員等がどのようにわりふられるのか気になります。  | 市の職員については、今後基本計画を策定する中で検討して参ります。  |
| 68  | 6   | 学校施設の老朽化 | 予算関係については、将来的に厳しいであろうことは、確かであろう。ただ、予算全体の内訳等を見ながら、その中で教育費の使途見直し、あるいは、他費目との調整検討の余地など踏み込んだ検証が必要に思う。また、鉄筋コンクリート造りの建物は、別ページで「60年以上」との説明あるが、長寿命化の改修工事によって「70～80年」程度に伸びるなどとも云われている。さらには、建設、改修費のコスト低減努力など図りながら、地域の多様な選択に出来るだけ応える検討は考慮すべきと考えます。 | 施設の維持、更新については、経費の節減、予算の獲得に努めて参ります。更新にあたっては、地域の皆様の御意見も伺い検討して参ります。                      |
| 69  | 6   | 学校施設の老朽化 | 削減や施設を複合化することをその地域の家庭一軒一軒にアンケートをして決めるのかです。どうやって誰が決めるのですか。  | 今後、学園ごとに、準備が整い次第「新たな学園づくり地域検討部会」を開催し、地域の皆様との対話により検討して参ります。その参加者や決定の仕方については今後検討して参ります。 |
| 70  | 6   | 学校施設の老朽化 | 小規模校も多く、予算のことを考えても学校の統合をすべきだと考える。それによって予算をおさえることができるのでは。<br>また〇〇中のような小さな中学校では不便も多いと聞いた。思い切った学区の再編も必要なのでは。  | 予算や学区編制についての御意見として伺います。   |
| 71  | 6   | 学校施設の老朽化 | 市内のどの学校施設も老朽化の問題を抱えている。修理にかかる経費を考えると、いずれは共同で使用でき、防災対策上も避難施設となるような新しい建物の建設も考えに入れる必要があると思う。  | 施設の老朽化、維持管理費については避けて通れない問題です。子どもたちを第一に考えてより良い手法を地域の皆様と検討して参ります。                       |

| No. | ページ | 項目   | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|------|--|--|
| 72  | 7   | 基本方針 | 「地域力を学校に取り入れる」「めざす子ども像を共有する」など確かにこれからの学校に必要なことだと思う。ただ、ねらいや子ども像を共有するまではわかるが、教育内容（カリキュラム）まですべてそろえるのはかなり難しいのではないと思う。子どもの表れがちがう中で同一カリキュラムを進めることは、子どもの実態に合わない内容にならないか心配である。どこまで枠組みをそろえるのか慎重に考えていく必要がある。 | 御指摘のとおり、カリキュラムについては子どもの実態に合わせながら、どのようなカリキュラムが必要なのか、枠組みをどのように揃えるのか研究する必要があります。平成29年度から城東学園、原野谷学園において小中一貫教育に関する研究指定をしており、その研究を基本に市としてまとめていきます。 |
| 73  | 7   | 基本方針 | 発達段階に応じた教科担任制、英語教育、道徳教育、ICT等だけでなく、学校施設の複合化・多機能化まで考慮されていることがよくわかった。<br>ただ、「学校は地域の太陽」である。例えば、〇〇小が今後統合の対象となることについて頭では理解できるが、気持ちの上で整理する時間が必要だと思った。<br>旧東山小学区、粟本小学区、原泉小学区での進め方や地域住民の感情面の整理の仕方等を知りたくなった。 | これからの社会を見据えたとき、子どもたちにとってどのような学校が良いのか、地域の皆様と共に考えていきたいと考えます。   |
| 74  | 7   | 基本方針 | 表紙は「小中一貫教育推進基本方針」であるが、7ページ（6ページの最終行にズレている）では「小中一貫教育基本方針」となっている。どちらかに統一すべき。※目次も統一する。  | 推進基本方針として御指摘の点を検討いたします。  |
| 75  | 7   | 基本方針 | 基本方針の①と⑦は非常に大切。小学校は徒歩で通学できる範囲が理想。学区を大きくすることで、これまでのかけがわ教育のよさ（地域に支えられた学校）が失われる。  | 掛川市として、子どもたちが多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨しながら資質や能力を伸ばしていく教育活動を大切にしたいと考えております。子どもたちにとってどのような環境が良いか、学校、家庭、地域の皆さんと検討して参ります。                              |
| 76  | 7   | 基本方針 | 市内全校で小中一貫教育を掲げられた方針で進めていくことは理解できる。   | 今後も掛川の子どもたちの未来のために教育を進めて参ります。  |

| No. | ページ | 項目           | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|--------------|---|--|
| 77  | 7   | 基本方針         | 良い面として、小中学校が統合され、義務教育9年間を見通した統一性をもった義務教育が行われることや、特別支援学級児童が、安定した学級配置のもと、自分の地域で個にあった教育を受けることができること、中学進学の不安が解消されることがあげられる。心配される事柄として、通学距離が遠くなり、子どもの負担が大きくなることや、地域と学校とのつながりが希薄になり、人口減少につながる心配があること、学園の編制方法や学校の設置場所など、地域住民との話し合いがとても大切になることがあげられる。 | 御指摘の通り、学園を基本として小中一貫教育を取り組むに当たり、子ども育成支援協議会等、地域とのつながりを大切にして参ります。   |
| 78  | 7   | 基本方針         | 個に応じた学習・指導が必要になって来た今、1学級の人数が多くては成果が上がりにくい。より効果的な学習・指導が行われるためにも、1学級の人数を減らすことができ、学年複数の学級が作ることができるよう、是非ともお願いしたい。   | 子どもたちの教育環境の改善に一層努めて参ります。御意見として伺います。  |
| 79  | 7   | 基本方針他        | 「教育大綱かけがわ」とも相まって、結局教育委員会による統制教育の隠れ蓑となるのではないかと。  | 掛川市教育委員会は一人一人を大切に市民総ぐるみの教育を推進しております。   |
| 80  | 7   | 具体的な取組       | 具体的な取組が明確でわかりやすいと思いました。   | 御意見として伺います。  |
| 81  | 7   | 目指す子ども像の共通理解 | 何校かの小学校が集まり、1つの中学校へ通うことになるので、学園内で目指す子ども像を共通理解することは意味のあること。  | 学園の子どもの現状や課題、保護者や地域の願いを踏まえ、義務教育を終える段階で身に付けておくべき力は何かという観点のもと、目指す子ども像を学園全体で共通理解に努めて参ります。                   |
| 82  | 7   | 目指す子ども像の共通理解 | 小学校と中学校では、発達段階の違いから、共通理解・実践をするのは難しいこともある。まずは現状と課題を共通理解し、目指す子ども像も共通理解できれば良い。   | それぞれの学園によって異なる実情があります。子どもや取り巻く環境等の現状や課題を、学校・家庭・地域の皆様に把握し、目指す子ども像を共通理解していただくことにより、子どもたちへの教育の質的向上を図って参ります。 |

| No. | ページ | 項目                  | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|---------------------|---|--|
| 83  | 7   | かけがわ型小中一貫カリキュラムの研究  | カリキュラムとはどこからどこまでをいつているのかわからない。英語・道徳などは別に項目立てしてあるのは、教科はカリキュラムに入らないからなのか？   | カリキュラムについては子どもの実態に合わせながら、どのようなカリキュラムが必要なのか、枠組みをどのように揃えるのか研究する必要があります。平成29年度から城東学園、原野谷学園において小中一貫教育に関する研究指定をしており、その研究を基本に市としてまとめていきます。 |
| 84  | 7   | かけがわ型小中一貫カリキュラムの研究  | 市が中心になって研究を進めることは賛同できる。かけがわ型小中一貫カリキュラムの研究については、他県、他市の先進校の実践から挙げられている課題について吟味し、掛川市の考えを示してからモデル研究に進んでいただきたい。  | 今後も他市や研究指定校の実践をよく検証しながら進めて参ります。今後の推進の参考意見とさせていただきます。   |
| 85  | 7   | かけがわ型小中一貫カリキュラムの研究  | これ（イ）が最も重要で、最優先で取り組むべきことであると考えます。その他のことは、この先にあることだと考えます。ここに挙げられている具体的な取組が構造化されると、プロセス（作業プロセスではなく、プラン実現プロセス）を意識できる方針となっていくと思います。   | 御指摘のとおり、基本方針に示した学園ごとの枠組みを基本に、かけがわ型小中一貫カリキュラムを編制した教育の研究を進め、市全体で質の高い教育を推進していきたいと考えております。   |
| 86  | 8   | 子どもの成長段階に応じたなめらかな接続 | 子どもたちの発達への早期化への対応や、中学校段階への移行に際して子どもが体験する段差の緩和を図る観点から、4・3・2制や5・4制など、学年段階の区切りを柔軟に設定するとあるが、都会では過度な進学競争により、進学重視の学校作りの観点で区切りの柔軟性を求め、最終学年での1年は受験勉強への追い込みを利用しているだけである。この環境を掛川に取り入れる要望が保護者からどれだけ出ていますか？中学進学時に高校受験を見据えた保護者にとっては、島田の付属中学校や私立への入学を強く希望するのであって、今の公立中学校へは期待は薄い。学力と心身の育成のバランスを考えた時、現状の学年段階の区切りや教育活動が、掛川市の保護者の要求を満たしていると感じる。保護者が混乱を招く様な記述や地域にそぐわない内容は、誤解を招くので削除した方がよいと考える。 | あくまで例でありますので、市民の皆様が多く情報から判断できるようにこのまま掲載したいと考えております。  |
| 87  | 8   | 子どもの成長段階に応じたなめらかな接続 | 4・3・2制や5・4制などがこれまで先進的に取り組んだ学校の成果と課題として出されている。掛川の児童・保護者・地域の実態を確認し、研究を進めていただきたい。  | 地域の実情に合わせた接続となるよう、研究を進めて参ります。御意見として伺います。   |

| No. | ページ | 項目                   | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|----------------------|--|--|
| 88  | 8   | 子どもの成長段階に応じたなめらかな接続  | 4・3・2制などを実施している地域の話も聞かすがメリットがあまりないように思う。ねらい、目的がはっきりしないのであれば、6・3制がベストだと思う。  | 子どもたちのためにどのような教育が良いか、よく研究して進めて参ります。  |
| 89  | 8   | 子どもの成長段階に応じたなめらかな接続等 | 成長課題や発達課題など、小・中学校期の子どもたちは様々な問題・課題があります。私は保健師という職業（行政機関勤務ではありませんが）に就いており、以前より、学童・児童期は保健師の領域から外れ、学校保健という領域になり、かかわりが途切れやすいと思っていました。今回のこの計画に、分野は違いますが、是非保健師の活用をしていただきたいと考えます。また、保健師の現在の問題について、妊娠期から看取りまで切れ目無い支援をあげています。どうして学校とのかかわりが薄く、社会に出て健康などと様々な提案をしても、ある程度形づくられてしまうと、なかなか修正できません。また、保護者の教育という視点からも、幼少期からの継続的なかかわりは必須です。保健師がもっと学校と関わることで、専門的なかかわり、地域コーディネーターもできると考えます。 | 今後も学校の健康教育への関わりをお願いいたします。  |
| 90  | 8   | 発達段階の応じた教科担任制の導入     | 義務教育9年間をどのように区切るかは、じっくり検討する必要があると思いますが、現行の「6・3制」よりも教育効果を高めるには、柔軟な区切りや小学校段階における教科担任制の導入が必要であると考えます。特に小学校高学年の実技教科（音・図工・体・家）や社会、理科、英語などは中学校教員の専門性が活かされれば、大きな教育成果が期待できるはずです。   | 本年度からの研究指定校による検証を通じ、より良い方策を検討して参ります。   |
| 91  | 8   | 発達段階の応じた教科担任制の導入     | 発達に応じてちょうど良くバランスがとれるといいと思う。  | 御意見のとおりだと考えております。  |
| 92  | 8   | 発達段階の応じた教科担任制の導入     | 小学校の授業では確かな学力を付けると共に、学級づくり・人間づくりをしていくため、教科担任制では難しいと思う。学級担任制、教科担任制それぞれメリット、デメリットはあるので心配している。  | 小学校高学年では、発達の早期化に伴い、生徒指導上の問題も多様化してきています。多数の教員が関わることで、発達段階に応じてより適切な対応が可能となると考えております。 |
| 93  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制        | 教科担任制の導入はとても良い！が、学級担任の印象は薄れるため、記憶が残らない。  | 教師の専門性を生かし、質の高い授業を展開していきたいと考えております。  |

| No. | ページ | 項目               | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|------------------|--|--|
| 94  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制の導入 | 小中一貫の場合、例えば小学校教諭は中学教諭の免許を持っていないと、結果中学に相当する教科の教授はできないが、それで是正できるのか。  | 例えば、中学校教員の内、小学校の免許を有しなくても、専門教科及び道徳、総合的な学習の時間、特別活動の担任は可能であります。課題もありますが、制度を有効活用していきたいと考えております。 |
| 95  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制の導入 | それぞれの学園によって違いが出ると思うが、自分の属する学園より他の学園に魅力を感じたときはその子の希望や親の思いなどで希望する学園に属することは可能なのでしょうか。   | 小中一貫教育推進基本方針の決定後、具体的な計画を検討して参ります。  |
| 96  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制の導入 | 学級担任制から教科担任制の導入は、子どもたちの学力向上と教員の負担軽減につながり良いと思う。   | 今後も子どもたちに確かな学力が育まれ、学校の教育力が十分発揮できるよう進めて参ります。  |
| 97  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制の導入 | 本年度、〇〇小では3年生～6年生の学級において教科担任制を少し取り入れている。教員の専門性を生かした教科指導を行うことで、児童にとっても学びの深い授業になっていると感じている。また、中学校に向けても、中1ギャップを解消する一つの方法だと思うので、この取り組み案に賛成である。  | 先進的取組をありがとうございます。どのような効果があったか教えていただければ幸いです。  |
| 98  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制の導入 | 現在、小学校でも中学校の教科担任制に近い形で担任以外が授業をもつというところを行っているが、必ずしも「専門性を生かした」教科担任制とはなっていない。人的配置を施していただき、まず実技教科から導入が始められたらよいと思う。   | 先進的な取組をありがとうございます。御意見を参考にして参ります。   |
| 99  | 8   | 発達段階に応じた教科担任制の導入 | 今後は教員の専門性を生かした教科指導を積極的に取り入れ、段階に応じて少しずつ教科担任制を増やしていくとあるが、現状の小学校の教育現場に取り入れるべきであると考えます。教員を加配して学力を伸ばす環境を与えたい。落ちこぼれを作らないために、従来の授業スタイルと、専門性を生かした教科指導授業スタイルと分けて少人数授業の取り組みを掛川市が率先して取り組むべきである。人件費の増額に繋がるが、生徒の学力向上と教員の多忙化の解消に大きく貢献する。 | 御指摘のとおり、小中一貫教育の制度を活用して、教員の専門性を生かした教科指導を積極的に取り入れていきたいと考えております。                                |

| No. | ページ | 項目      | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|---------|---|--|
| 100 | 8   | 英語教育の充実 | 現状では、学校の学習だけでは間に合わず、塾に入れて補っています。親の収入によっては、塾へ通えない子もいるはず。このままでは、教育格差は広がります。中学校の先生が小学校へ来て教えるなど、より一層の工夫が必要です。   | 小中一貫教育を取り入れることにより、中学校の教諭が小学校へ来て教えることが可能となる制度の活用を考えております。   |
| 101 | 8   | 英語教育の充実 | 今現在、英語力、特に英会話力は必須だと思います。英語文法より、会話力の向上を充実してほしいです。  | 御指摘のとおり、英語教育はこれからの子どもたちに必要な教育だと思います。御意見として伺います。  |
| 102 | 8   | 道徳教育の充実 | 掛川には昔から報徳の教えが根付いています。これからの子どもたちにこそ、是非学んでほしいです。また、いろいろな人の考えを知る上でも、学校図書館をもっと充実してほしいと思います。ゲームや核家族など、人とのコミュニケーション力を育てる場が減っています。学校図書館には各校に司書さんを配置していただき、ただの本を借りる場所ではなく、学習を深める場となるよう期待しています。                                      | 掛川市に根付いている様々な道徳的価値を子どもたちに学べるよう、市として「かけがわ道徳」を推進しております。また、学校図書館の「学習センター・情報センター・読書センター」としての機能も充実していくよう努めて参ります。                                  |
| 103 | 8   | 道徳教育の充実 | 報徳の教えが根づく掛川らしさを生かした「かけがわ道徳」を推進するとあるが、報徳の教えは良い内容もあるが、社会一般的には『報徳を信条とする同志の団体で、社員みんなの協力で実現し、さらにその行動を広く社会一般に及ぼしてゆこうとする公益社団法人』であり、公立学校が特定の法人に組するような行為や表現はするべきでない。   | 特定の法人に組するのではなく、報徳の教えは掛川市の特色の1つとして考えています。<br>なお、公益社団法人は、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づき、内閣総理大臣もしくは都道府県知事により、その公益性を認定されており、公共の福祉に反していることはありません。 |
| 104 | 8   | 道徳教育の充実 | 道徳は「特別の教科」として、小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から教科化され、規範意識、自他の生命尊重、自尊感情や他者への思いやり、いじめ未然防止に関する事などを中核として、各学園の実態に応じた取組を行いますとあるが、まだ学園になると決まっていない状況で学園の表現がこの箇所にあるのは不適切であると考えます。ただ、文科省からの通達による道徳をそのまま実行するのではなく、掛川市として体験型のプログラムを開発して実行してほしい。 | 御意見として伺います。なお、掛川市の特徴ある取組としまして、「かけがわ道徳」に取り組み、掛川の題材を生かした道徳の授業を行ってきております。   |

| No. | ページ | 項目                | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|-------------------|---|---|
| 105 | 9   | I C T活用の推進        | I C T活用の能力は、これからの現代を生きる子どもたちには不可欠な力です。しかし、現在、掛川市の学校では、I C T機器の整備が不十分です。教室でパソコンやインターネット、実物投影機などが利用しづらい状況です。このままでは、文科省が進めるプログラミング教育を行うことにはかなり高い壁があります。機器やインターネット環境の整備に予算をとっていただきたいです。   | 計画的な整備を進めていきたいと考えます。  |
| 106 | 9   | I C T活用の推進        | 学校にタブレットが導入されていない。タブレットを用いることによって、施設分離型の小中一貫教育校でも、効果的に情報活用能力やI C T活用スキルを育成できるのではないかと楽しみにしている。   | I C Tの活用を推進するための教育環境整備は大切であります。掛川市教育情報化推進基本計画に沿って、整備を進めて参りたいと考えております。 |
| 107 | 9   | I C T活用の推進        | 小学校1年生からプログラミング教育→小学校からプログラミング教育  | 御指摘の点を検討いたします。  |
| 108 | 9   | I C T活用の推進        | 教材のカタログを見ると、いろいろなI C T危機が掲載されていますが、現在の学校のI C T環境については、学校に配当される予算では対応しきれないのが現状です。特に、小規模校は配当予算も少ないので、パソコンだけでなく、プロジェクターなどの周辺機器も教育委員会主導で計画的に全校にそろえていっていただきたいと思います。  | 今後も計画的に予算配当を進めます。御意見として伺います。  |
| 109 | 9   | I C T活用の推進        | I C T活用は、子どもたちの学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や子どもたちの主体的・協働的な学びを実現する上で効果的なツールということには共感するが、高校生以上のI C Tの活用実態の内容やモラルの低さには、さまざまなトラブルの要因であると感じる。I C T機器の利用による『イジメ』『軽はずみな書き込みや行動』などを道徳教育と絡めて掛川市としての方針を打ち出し、プログラムを開発すべきである。文部科学省では、小学校1年生からプログラミング教育を進めていく検討を始めているようだが、特に小学生の小さいうちからモラルや危険性を教えておく方が先ではないかと考える。 | 御意見として伺います。なお、これまでも情報モラル教育に関しては、子どもの実態に合わせて取り組んでおります。                 |
| 110 | 9   | 家庭・地域とつながる体験活動の充実 | 定年退職された方には是非経験してきた学問や職業などについて子どもたちに話をさせていただいて、身近に勉強させていただけたら、その後の交流にもつながるのではないかと思います。   | 子どもたちが、地域の方の様々な経験を学ぶ機会は極めて重要であると考えております。御意見として伺います。                   |
| 111 | 9   | 家庭・地域とつながる体験活動の充実 | 現在の子どもは、共働きの家庭が多く、親とまともに関わっていない子どもも多いと思います。地域の方と掛川市の文化に親子でふれあうことができれば、とても良い教育になると思います。  | 学校・家庭・地域が連携して、子どもたちに本物に触れる体験を多く取り入れていくよう努めて参ります。                      |

| No. | ページ | 項目                               | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|----------------------------------|--|--|
| 112 | 10  | 学園における学校配置の適正化及び学校施設の複合化・多機能化の検討 | 児童数減少に伴い、やむを得ないこともあるが地域の愛着や誇り、思い出もあると思う。地域の思いを受けとめながら慎重に進めていただきたい。   | 地域の皆様の思いを受け止めながら、子ども目線に立って子どもたちのためにどんな学校づくりを目指していけば良いか検討して参ります。  |
| 113 | 10  | 学園における学校配置の適正化及び学校施設の複合化・多機能化の検討 | 適正な学級数にするためには、統廃合は止むを得ないとは思いますが、それによるデメリットを洗い出し、対策を織り込んだ案とするように。通学に掛かる時間が増えれば、遊び、家庭学習の時間が取られます。また、共稼ぎ世帯への負担増とならない工夫を。<br>自分の娘は大淵に家庭を持って住んでいますが、時々、幼稚園が休みのときに自分が孫の面倒を見ています。親が近くに住んでいない人には共稼ぎも難しいでしょう。 | 平成29年2月28日の「掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会」からの報告書では、小規模校のメリット・デメリットについて述べられています。これらを基に、地域性を考慮しながら、地域の皆様と共に検討して参ります。<br>学校を一体校にする等により、通学距離が長くなった場合、バス等の交通手段の導入を今後検討し、通学時間の短縮を目指して参ります。<br>放課後の子どもたちへの支援として、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室等があります。また、放課後子ども教室は、現在学園ごとに検討したり、活動を始めたりしております。 |
| 114 | 10  | 学園における学校配置の適正化及び学校施設の複合化・多機能化の検討 | 「・・・従来のようにもっぱら学校教職員によって担う状態から、地域や保護者がそこに参画し一体的に担うかたちへ・・・」とあるが、どのような内容を指しているのか。こども育成支援協議会の活動等で既にかなり進んでいるように感じるが。<br>協議会会合における意見交換、学校ボランティア、広報、学習会、地域内巡回、また、学校内の環境整備作業など地域の人材が活発に支援している。               | 御指摘のとおり、掛川市は中学校区学園化構想を推進し、子ども育成支援協議会を中心に地域の皆様から多大なる御支援をいただいております。今後、市民総ぐるみの教育をさらに発展させるため、これまでの組織体制や活動を基盤とし、地域でどのような子どもたちを育てるのかを学校と地域の皆様で共に考え、各学園で目指す子ども像を設定共有することや、学校の運営にも参画していただきたいと考えております。  |

| No. | ページ | 項目                               | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|----------------------------------|---|---|
| 115 | 10  | 学園における学校配置の適正化及び学校施設の複合化・多機能化の検討 | 小中一貫教育に向けてのカリキュラム編成を考えた場合、小学校同士の交流や小学校と中学校との交流を積極的に行っていきたい。その場合、自転車での移動は安全上難しいので、スクールバスがあると交流しやすくなる。  | 子どもたちの安全を考えた交流活動ができるよう考えて参ります。  |
| 116 | 11  | 学園における学校配置の適正化及び学校施設の複合化・多機能化の検討 | 小規模特認校制度を必要とする可能性は、「地域の太陽となる学校」を重視し、小規模校の存続に配慮した場合となります。しかし、この制度をすでに取り入れている政令市等の先進事例状況から考えますと、児童生徒の通学交通手段の手配が困難な僻地だから必要とされるケースであって、掛川市の状況とは異なります。僻地校がなく、人口約12万弱・児童生徒数約9千人に対し学校数31校もあるのは、同じ人口規模の他市と比べると、明らかに学校適正規模・配置から外れていると考えられます。また、小笠・掛川地区の教員（講師も含む）が不足している現状を考えますと、かなり危機感をもって「かけがわ型小中一貫教育」の実現に向けて推進しなければならないと思います。<br>子どもたちの未来を第一に考えた教育であることをあらためて強く踏まえると、この小規模特認校制度の可能性のあることを記載するのは、後ろ向きのような感じがしました。 | 掛川市における教職員の不足の状況は深刻な課題であり、そのことも含めて一貫教育を推進していきたいと考えます。今回の推進基本計画では、小規模特認校制度も含め、市民の皆様には多くの制度があることを御理解いただきたく記載しております。 |
| 117 | 11  | 小中一貫教育校における学校施設の在り方              | 「構造改革特別区などの認定を受けることで、例えば小学校5年等から通学校舎を変えることもできます」仮にこれが現実のものとなったとき、現在行われている「通学区登校班による集団登校」の在り方はどのようになるのか気になります。通学校舎が変われば集団登校の編制も変わりますし、班のリーダーを担う学年であったり、そもそもの登校班の規模が小さくなってしまえば、隣接登校班と合同に・・・等、付随する問題も現れるのではないのでしょうか。現在地区評議委員を務める立ち位置からそれが気になります。   | 構造改革特別区は、掛川市が実施すると決めたものではなく、制度上の一例を示したものです。御意見として伺います。  |
| 118 | 11  | 小中一貫教育校における学校施設の在り方について          | 構造改革特別区などの認定を受けることで、例えば小学校5年等から通学校舎を変えることもできるとあるが、例えとしてではあるが、このような事をする、高校のように人気校と不人気校が出てきて特に山間部や海沿いの学校が不人気で学校の体制を崩しかねない。義務教育として生まれた地域や親の経済力に左右されない公平感のある現在の教育を維持するためにも、例えとしてでもこの表記は削除すべきであると考えます。   | 構造改革特別区は、掛川市が実施すると決めたものではなく、制度上の一例を示したものです。御意見として伺います。  |

| No. | ページ | 項目             | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|----------------|---|---|
| 119 | 12  | かけがわ型小中一貫教育構想図 | 『教育大綱かけがわ』の内容は、普通に文科省や静岡県が言っていることであって、掛川市として何も独自性など無い。一般市民が文科省や静岡県の方針に興味や関心が薄く、何を言っているのか知らない人が多いからといって、全てが掛川市の独自の日本における先進性のある構想かのように誤解を招く表現である。ネーミングや体裁を考えることに時間を割いて、中身の無い政策があまりにも多く、市民の市政への関心がますます薄れてしまう。薄れてしまったからこそ、パブリックコメントが寄せられず、市民の意見を吸い上げる機能が不全になっていることを骨身に感じてほしい。このままの状況で小学校の再編に持っていったら、感情論むき出しの議論となり、地域の分断や、市政の混乱を招くことに危機意識を持って、能力のある人材を登用し、この難局を乗り越えるべきである。 | 「教育大綱かけがわ」は総合教育会議の中で議論し策定したものです。御意見として伺います。       |
| 120 | 12  | かけがわ型小中一貫教育構想図 | 「地域の太陽となる学校」という文言がよいと思いました。学力や心体の育成はもちろん大切なのだと思いますが、環境づくりという面でこれからの教育で必要不可欠だと思います。  | 今後も学校と地域の密な連携に努めます。                               |
| 121 | 12  | かけがわ型小中一貫教育構想図 | 「確かな学力の育成」に書かれた5つの項目は、とても大切なものであると感じています。   | 今後も確かな学力の育成に努めて参ります。御意見として伺います。                   |
| 122 | 12  | かけがわ型小中一貫教育構想図 | かけがわ型小中一貫教育の柱とねらいが明確に示されていて、とても分かりやすい。  | ねらいに迫る教育ができるよう小中一貫教育を推進して参ります。                    |
| 123 | 12  | かけがわ型小中一貫教育構想図 | 保幼小中一貫した教育をしてつけるべき力をつけていくことの大切さを感じました。掛川市を担う子どもを育てていきたいです。  | 小中学校が目指す子ども像をしっかりと共有して教育を進めることが大切だと考えています。        |
| 124 | 12  | かけがわ型小中一貫教育構想図 | 読んでいて第1ステージで何を行い、成果と課題が何だったのかよくわかりませんでした。12ページの一番下の部分だけでしょうか。   | 3ページ「学園化構想第2ステージの実現に向けて」において記載しており、多くの成果を挙げております。 |

| No. | ページ | 項目                       | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|--------------------------|--|---|
| 125 | 13  | 新たな学校づくり実現のためのプロセス       | 地域ぐるみで学園化構想が進められていることがよくわかった。自分は小学校に勤務しているののでわかりやすく感じた。子どもの卒業をはじめとして、学校との接点がない人にも知ってほしい内容だと感じた。  | 中学校区学園化については、地域の皆さんに広めていくよう努めて参ります。御意見として伺います。  |
| 126 | 13  | 新たな学校づくり実現のためのプロセス       | 「新たな学園づくり地域検討部会（仮称）」については、優先度の高い学園だけでなく、なるべく早く全市で学園ごと立ち上げ、話し合いを重ねていくべきだと思う。掛川市の状況だと、原泉小のような複式になってから統合を考えるより、地域の活性化や子どもの学びの場の充実を考え、小中一貫教育を進めるために時間を掛けながら積極的な統合、学校配置について話し合う場を設定すべきと考える。 | 学校及び地域の皆様との対話を通して、進めていきたいと考えております。  |
| 127 | 16  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | 地域によっては学校や校名に愛着や誇りを持っている方が多くいる。実施する場合は地域と十分話し合って誠意ある対応を望む。   | 基本方針④にあるとおり、地域の皆様と一緒に十分な検討をしていきたいと考えております。  |
| 128 | 16  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | 地区では、小学校、学童保育、地域コミュニティスペースなどが隣接しており、質の高い学校・家庭・地域教育が進められている。現在の環境が変化していくのであれば、より質の高い教育活動が得られるという説明が関係者に必要だと思う。  | 子どもたちが集団生活の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨しながら資質や能力を伸ばしていくためには、一定の集団規模が確保されていることが望ましいといえます。先行実施している他自治体の報告によると、学習習慣の定着が進んだり、学習意欲の向上が見られたという報告もあります。学園ごとに、十分な説明と検討を重ねて参ります。 |
| 129 | 16  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | 同じ中学校区の小学校でも、規模により児童数が大きく違うので、同中学へ進学した場合、人数のかたよりにギャップを感じる。小中縦のつながりと同時に同じ学区の小学校同士の交流も普段から必要。  | 小中一貫教育の推進に当たり、小学校同士の連携も大切にして参ります。   |

| No. | ページ | 項目                       | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|--------------------------|--|---|
| 130 | 16  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | 原則として、現中学校の敷地が望ましいとありますが、登下校はどのようになるのか？ バス通学の検討が必要とP10にあります、各地区へまわってくられるのか？  | 地域検討部会で新たな学校の話が議論となった際には、バスについても検討が必要と考えております。  |
| 131 | 16  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | 基本的な方向性は、これまでも何度か話し合われており、外部委員会でも小中一貫教育を検討していくべきであるという意見でまとまった。今後、小中一貫教育を進めていくときに、どのような学校施設が考えられるのか具体的に例を示していくことで、教職員や地域の方にも理解が進むと思う。したがって、これは「参考資料」ではなく、この方針の核となる位置づけで「本文の中に入れ込む」べきである。そうしないと、いつまでも「小中一貫」＝「統廃合」の構図から離れていかない。魅力ある新しい学校を作るのであり、従来の学校の形とは違う形が考えられることを早く示し、市民にも具体例の情報を広めるべき。<br>また、第2ステージ報告書との区別がつく。第2ステージ報告書を受けて、市教委が何を具体的に考えているか伝わると思う。 | 各種施設形態は、小中一貫教育における施設の例であり、直接の基本方針ではないため、参考資料といたしました。  |
| 132 | 17  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | 〇〇学園には、一番適したスタイルだと思います。現段階で、認定こども園が決定しているので、密に話し合いを持ち、建設費等も考慮し、早くに実現すべきだと思う。<br>更に複合施設にする場合は、入門証も必要かなと思う。  | 子どもたちのことを第一に考え、地域の皆様と検討して参ります。御意見として伺います。   |
| 133 | 18  | 【参考資料】小中一貫教育における学校施設の在り方 | これはとてもいいと思います。発達障害など、手をかけてあげることが必要なお子さんが大規模校に通学することは、とても大変なことに見受けられるので。小さな学校にゆったりとしたクラスが必要な大規模校区の子を通学させてあげてほしい。また、障がいとまではいなくても、入学前に療育に通っていた子どもは小学校に入ると相談できる場がないので、そういう場も設けてほしい。  | 小規模特認校制度を導入するに当たっては、受け入れ先の学校やその地域等とよく検討した上で導入することが必要となります。<br>また、療育に通っていた子どもの保護者で、教育相談を希望される場合は、まず学校へ御連絡ください。                   |
| 134 |     | その他                      | 憲法・教育基本法の観点からどう導いた考え方なのか。  | 平成27年6月に、小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校を制度化する改正学校教育法が成立しました。その中では、小学校における教育と中学校における教育を一貫して施すため、設置者の定めるところにより、教育課程を編制することとされております。 |

| No. | ページ | 項目  | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|-----|---|--|
| 135 |     | その他 | 私は、小中一貫教育の方針に反対し、〇〇学校を命をかけ住民運動をして守り抜く決意です。  | 掛川市として、子どもたちの将来のこと、そして子どもたちにとってどのような教育が必要かを地域の皆様と一緒に考えて参ります。 |
| 136 |     | その他 | 「地域学校協働活動」は*で説明が必要ではないでしょうか。  | 御指摘の点を検討いたします。   |
| 137 |     | その他 | 2ページ 9行目 無駄なスペース有り<br>3ページ 4行目、7行目 また、またと同じ接続詞が続く<br>3ページ 4行目 2文字文、空白がある  | 御指摘の点を検討いたします。   |
| 138 |     | その他 | 「地域の教育力」はあります。しかし地域に暮らす皆さんはなかなか確信を持つまでにはいていません。中学校区単位の子ども育成支援協議会がありますが、小学校単位での協議会があると、まちづくり協議会と連携していくことで具体的な取組や議論ができると思います。人が集い・語ることで見えてくる課題を、地域の力で解決していくことで、「地域の教育力」を確認し高まっていくと考えます。子どもたちもそれを見ることで、自分が育つ地域を好きになると思います。 | 現在、まちづくり協議会は主に小学校単位、子ども育成支援協議会は中学区単位になっております。今後検討して参ります。     |
| 139 |     | その他 | 学校現場におろして進めたいこと、市で進めるものをわけて書いてほしいです。  | 御意見として伺います。  |
| 140 |     | その他 | 小中一貫教育を市内全域で今後取り組んでいくということがわかり、子どもたちにとって良いことだと思うため、是非、推進していただきたいと思いました。   | 子どもたちに良い教育を推進していくことができるよう御意見として伺います。                         |
| 141 |     | その他 | 小中一貫教育の基本方針ではありますが、まちづくり協議会等の地域団体(P7(2)⑤)や地域の施設整備(P7(2)⑧)、地域での体験活動(P9(3)ク)など、教育とは少しはなれた地域の方たちや団体とともに推進していく内容になっているため、基本方針としてまとめてそれによしとならないよう、いろいろな機会にPRをしたり、協力をあおいでいくことが大切なのかなと思いました。                                   | 様々な場で学校・家庭・地域が協働し合い、市民総ぐるみの教育となるよう御協力をお願いします。                |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|------|---|--|
| 142 |     | 自由意見 | <p>一貫教育の目的、理想は反対するものではありません。</p> <p>しかし、課題の解決策を立案した時、その案によるデメリット、発生しそうな問題点を洗い出し、それに対する解決策をも含めた案が求められます。予測するのが難しい問題点を予測して対策を練ることが重要で、見せていただいた案には、そのような不測問題の洗い出しと解決策が十分に練られているとは思えません。このままでは、断片的、一面的な自己都合で反対を述べる方が出て来ることが予想されます。</p> <p>「パブコメを募集したからそれでよし」ではなく、保護者の方々と、広く、対話による意見をまとめていただくのが望ましいでしょう。</p> | <p>小中一貫教育推進基本方針（案）の土台が、掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会報告書です。掛川市にある9つの学園それぞれに地域性があり、実情を伺いながら、子どもたちにとって何が必要かを地域の皆様と対話し、意見をまとめていきたいと考えております。</p>    |
| 143 |     | 自由意見 | <p>基本方針（案）の中には、家庭地域とつながる等書かれているが、白々しさしか感じません。どうしてこの方針案が地域の太陽となる学校になるのか回答してください。</p>   | <p>これまで学校は様々な意味で地域の拠点となり、地域の太陽と言われてきました。地域の拠点としての学校の存在は、今後も守って行くべき掛川市の財産であります。子どもたちや地域にとって、今まで以上の「魅力ある学校（太陽）を創る」ために、地域の皆様と共に考えて参ります。</p> |
| 144 |     | 自由意見 | <p>子どもたちの学びを豊かなものにしていくには、ICTの活用は欠かせません。各教室でそれが活用できる環境が整うとよいと考えます。具体的に言うと、60インチ以上の大型テレビ、デジタル教科書などです。デジタル教科書は、駆使すれば、教材研究の時間を短縮させることにもつながり、教職員の多忙解消にもつながるものです。プログラミング教育実施準備と並行して、これらの整備の計画を進めていただきたいと望んでいます。</p>   | <p>ICTの活用を推進するための教育環境整備は大切です。掛川市教育情報化推進基本計画に沿って、整備を進めて参りたいと考えております。</p>  |
| 145 |     | 自由意見 | <p>基本方針案ですので、ある程度、「遊びがある表現（がちがちに決まった表現にしないで幅広く読み取れる表現）」にとどめていただけたらありがたいです。</p>  | <p>御指摘の点を検討いたします。</p>  |
| 146 |     | 自由意見 | <p>持続可能な計画であるか、また、各校の特色を消したり、金太郎飴みたいになることを助長したりする内容ではないか御配慮いただければ幸いです。</p>  | <p>小中一貫教育については、各学園や地域の特色を生かした教育活動を展開していきたいと考えております。また、学校や地域の方々と多くの対話を通して、持続可能な計画となるよう推進して参ります。</p>                                       |

| No. | ページ | 項目   | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|------|--|---|
| 147 |     | 自由意見 | <p>私が住む地区には、少人数の小学校があり、娘も毎日楽しく通学しております。学校は学年隔たりなく、仲良く話をし、先生の目の届く状態で学業にも取り組んでいます。身近に自然も多く、四季に触れながら地域の人々と接しながら防犯の意味でも親として安心し、満足しております。もちろん、世の中の流れも感じ、子どもたちが生きていく中でグローバルやチャレンジ精神はとても大切だと思います。それも違う形でまだまだできることがあるのではないのでしょうか。そして、大人数での学校になった場合のいじめや引きこもりのデータ、少人数の場合との比較を知りたいと思いました。あと、できれば子どもたち自身の意見も少なからず聞くことができないのでしょうか。進む道を決めていくのは大人の役割だと思いますが、学校で生活をしているのは子どもたちだからです。</p>  | <p>一貫教育を行うことは、子どもにとって必要なことだと考えております。また、子供の意見を尊重することも、もちろん大切です。が、今のことだけでなく、未来の社会を予想しながら判断することは大人のリーダーシップが必要です。</p>                         |
| 148 |     | 自由意見 | <p>今回の基本方針案は、全体として将来の予算見通しの厳しさが大きな背景、要因となっている印象である。児童数の将来見込みや学校の適正規模、少規模校の難点などが一応説明されているが、一面的で統廃合の方向を補強するための内容に偏っているように感じられる。</p> <p>予算関係については、既に述べたように、予算全体の中で組み替え、調整、また建物寿命見直し、建設、改修費の低減努力など、あらゆる面の精査、検討をすべきだと思います。学校規模の大小では、それぞれ長所短所があり、この点は改めて地域関係者含め議論すべきだと思います。その中で、複式学級は別として、一学年単学級でも、教育実態が良く、保護者や地域が現状維持を選択した場合は、予算面の状況は踏まえつつも、その選択を尊重する余地は残して欲しいと思います。</p> <p>そのほか、学校配置を考える上で、子供の通学距離の問題であるが、体力や判断力の発達段階ごとに配慮すべきと考えます。年齢が小さいほど、出来るだけ徒歩で通える近距離が望ましいのは自明です。特に小学生低学年は、安全面も考慮し、有事の際、家族が短時間で駆け付けられることが安心につながります。</p> <p>最後に地域との関係であるが、中山間地の小規模校は、地域の重要中核施設である面がより色濃い。学校行事、地域の行事、スポーツ少年団活動などで交流し、地域の拠点として必要不可欠な存在となっている。また若い人が地域に定住する上で、大きな必須要素となっている。地域に学校が無くなれば、定住人口の減少に拍車がかかるのは目に見えている。その地域は衰退、土地も荒れ、税収も減っていく恐れもある。各地域は危機意識をもって、子育て、教育環境などの面で改善努力を続けています。「学校が無くなるのは寂しい」とかの情緒的理由だけではなく、市内各地域の均衡ある発展維持の観点も必要に思う次第です。</p> | <p>掛川市としては、これまでの中学校区学園化による小中連携教育をさらにステップアップし、小中一貫教育を進めようとしています。ただ、その進め方には、様々な手法があり、市や教育委員会の考えだけで進めるのではなく、地域の皆様と共に手法を検討していきたいと考えております。</p> |

| No. | ページ | 項目   | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|------|--|--|
| 149 |     | 自由意見 | 子どもの発達状態や交遊関係などから、自由に行きたい学園に属することができたらとてもありがたいです。ただ、天災が起きたら、と考えると、できるだけ地元の学園に属するのが良いかもしれません。また、これから、子どもたちが放課後過ごせる場に高齢者や障害者の施設も合わせて考えていただけると、お互いにやれることをして助け合う場になるのではないかと思います。少子化だけでなく、高齢化も合わせて考えていかないと、働く人口は減っていくのにどちらも面倒を見ることができなくなるからです。                                      | 防災面や放課後の在り方について御意見として伺います。   |
| 150 |     | 自由意見 | 学園化構想は、掛川市教育の方向性としてよいと思います。しかし、この考え方は学校と地域の一部の人にしか伝わっていません。まちづくり協議会と同じで、自分の地域でこの話をしても「それって何?」「学校のことは先生や親がやればいいじゃん。」という人が多いのが現実です。これから10年20年と続けることで、根付くのでしょうか。<br>私の個人的な案ですが、各学園毎に親世代や若者世代に人気のある方を呼んで、人集めをして、そこで学園化構想の話をするのはどうでしょうか。かけがわ教育の日の地域版です。お金がかかかりますが、何かしないと変わらないと思います。 | 学園化構想について、地域の皆様へお伝えすると共に、御理解を図って参ります。  |
| 151 |     | 自由意見 | 今回のパブリックコメントの募集は、期間が短かったり、HP掲載だったり、各校により対応が違ったりと問題が多かったと思います。これからコミュニティスクールや地域の人材活用といった面で、地域コーディネーターの役割が重くなっていくと思います。様々な分野の知識を必要とする専門職であると感じています。にもかかわらず、時給830円。折から負担と責任が重くなっていく中、やってくださる方が見つかるか、かなり不安です。  | 子ども育成支援協議会の中で、地域コーディネーターの役割は多岐にわたり、子どもたちのために御尽力くださっておりますことに感謝申し上げます。各学園ごとに地域コーディネーターとして御活躍くださる方を増やし、負担の軽減を図ることを目指していきたいと考えております。 |
| 152 |     | 自由意見 | 小学校と中学校の先生の関係性はどのようなのでしょうか。交流や勉強会もあると思いますが、小1、中3では対応等も全く違うと思うので子どもたちを9年間のスパンで見ると言うことは、今までの教育から又改正していく点も必要と思われると思います。大きな小学校だと、1年生の小さな体で校舎内の移動もとても大変です。また、1年生の下校時間が学校によって大きな差があります。市内の学校で足並みをそろえてもらいたい。大人だけの考えで会議をするのではなく、小学生、中学生の意見もくみ取ってほしいと思います。                              | これまでも、学園化構想事業の中で、小・中学校の教員が合同で研修を深めてきております。小中一貫教育を推進するに当たり、さらに相互の研修を深め、教員の質を高めるよう努めて参ります。   |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|------|---|--|
| 153 |     | 自由意見 | <p>「かけがわ型小中一貫教育構想図」の中に、「地域と共に目指す子ども像の共有」「地域人材・地域資源の活用」とありますが、ここでお力浴えいただける地域の方というのは、ほぼ有志であり善意。つまりはボランティアの域を出ないわけです。知識や経験だけでなく彼らの貴重な時間を提供していただくのであれば、その労に見合う報奨があってもいいのではないかと思います。私も含め、親兄弟や親族以外の第三者に様々な指導をお願いするとき、注文ばかりをつけてくるのでは、あまりに申し訳ないです。地域の人材資源を活用するのであれば、彼らに対する何らかの「リターン」があってしかるべきではないでしょうか。そこも織り込んだ上での中中一貫教育構想をお願いしたいと考えます。（ここで学校発信の「参加費徴収」というのは違うと思います。あくまで掛川市として取り組む教育構想であるならば、市の予算の幾分かこちらに回していただくことは可能でしょうか）</p> <p>また、地域一丸となって子どもたちの教育環境を整えていく構想を練る中で、大人たちの間に不可視の温度差があることを知っておいていただきたいです。学校活動や地域振興の際に、有志を呼びかけると、たいていいつも一定の決まった面々は名乗りを上げるけれど、圧倒的多数の人はめんどくさがってかわりを持つとうとしないか、最初から知らないふりを決め込んだりするのです。常に同じ人が見返りは無いと知りながら、多くの役を担うのは、あまりにアンフェアだと思います。それが積み重なったとき、何らかの歪みが生まれるのではと心配しています。</p> | 基本的にボランティアの方への謝礼は現在行っておりません。学校支援ボランティアとして御協力いただける方を増やしていけるよう努めて参ります。 |
| 154 |     | 自由意見 | <p>財政難からの統廃合と、小学校と中学校の敷地を合わせての維持管理費の削減は理解できる。しかし、小中の9年間をひとまとめにした小中一貫教育は、意見に示した通りの理由により、反対である。ただし、同じ敷地内であるため、生徒の交流や体験イベントは賛成である。</p>   | 掛川市の小中一貫教育において、児童生徒の交流を含めた質の高い教育を目指したいと考えております。御意見として伺います。           |
| 155 |     | 自由意見 | <p>今回の掛川市の示している掛川市小中一貫教育推進基本方針は、現場の混乱を招くし、教員の多忙化の解消や生徒の教育環境の向上に役立つと感じる項目が無い。また、新学習指導要領の改定により、更なる教育現場の混乱と教員の多忙化と、生徒への余裕の無い学習環境の押し付けをしてしまう可能性が非常に高い。現に授業時間の確保優先により、学校行事の削減や長期休みの削減などにより、子供たちの楽しみや学校に行きたいという意欲が削がれている。益々この傾向が強くなることを危惧している。</p>  | 子どもや教職員の多忙化の問題など御示唆いただきありがとうございます。御意見として伺います。                        |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|------|---|---|
| 156 |     | 自由意見 | 掛川市小中一貫教育推進基本方針は、文科省の掲げる一案のコピーであって、教育現場を全く無視した空想論が先行している。文科省の言う通りにしないと予算や審査・申請に嫌がらせを受けることは予想できるが、子供の利益を優先に考えれば、教員の多忙化を解消させ、教員と子供のかかわる時間を増やすべきであり、意見で示した教科担任制による加配を導入することを、掛川市として英断してほしい。<br>掛川市小中一貫教育推進基本方針全般を読んだが、小学校区の統廃合を遠回しに言っているだけで、文科省の掲げるビジョンに隠した曖昧な方針になっている。掛川市がこうするんだという意欲が全く感じなかった。 | 掛川市ではすでに30年前から小中連携教育を行い良い成果を挙げております。今後、子どもたちのために連携教育から一歩進め、小中一貫教育へと高めていきたいと考えております。 |
| 157 |     | 自由意見 | 通った幼稚園・保育園によっても、1年生の規範意識（躰）や行動の違いが、出ていることにお気づきですか？園の教育力に差が出ています。こういったことも掛川市はしっかり考えるべきではないですか？小学校や中学校も同じです。  | これまで園、小学校、中学校と連携して教育に取り組んできております。今後、園とは連携を深めながら小・中学校においては一貫教育へと高めていきたいと考えております。     |
| 158 |     | 自由意見 | 9ページに書かれている → 小中一貫教育を進めていくとき、学校配置の適正化や、施設の複合化・多機能化も含めて学校施設をどうするかということとは切り離せない課題です。これらの方針を検討する際には、地域ごと実情が違ってくるため、学園単位で検討する場を設定し、地域の意見を取り入れながら地域と共に考え、学園ごとに意見をまとめていきますとあるが、『中学校区学園化構想』＝『小中一貫教育』と決めつけられており、イコールでなければならない理由が、全く見当たらない。初めから議論の余地なく、小中一貫教育のみの構想に大きな疑問を持たざるを得ない。                     | 9ページに書かれているとおり、地域の皆様との対話を通して小中一貫教育を進めて参りたいと考えております。                                 |
| 159 |     | 自由意見 | 文科省が示した、小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引（平成28年12月26日）のコピーが掛川型小中一貫教育であると意見でも述べたが、生徒の自主性や責任感の確立には教育的効果が薄く、ゆとり教育の二の舞になる可能性もある。   | 子どもの自主性や責任感、小中一貫教育だから確立できないということはありません。発達段階に合った適切な教育により、子どものそのような力を育むと考えております。      |
| 160 |     | 自由意見 | 「平成27年度プロジェクト研究報告書 教育制度 -039 初等中等教育の学校体系に関する研究報告書2 小中一貫教育の成果と課題に関する調査研究 平成27年（2015年）8月 研究代表者 渡邊恵子（国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長）」において、成果に対して納得出来るような内容は、あまり無いし、説得力もない。また、高校に進学した生徒の具体的な調査や評価が無い。  | 様々な国の報告書の提示をありがとうございます。そういった多くの報告書や指定研究の成果を踏まえて進めて参ります。                             |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|------|---|--|
| 161 |     | 自由意見 | 構造改革特別区や小規模特認校制度・教育課程特例校制度の利用などを謳うが、掛川市の現実的な教育現場の問題から目を逸らし、逃げている。掛川市として市の抱える財政と教育に関する問題について、正面から考えるべきであり、緊急の課題でもあり、先延ばし出来ないはずであるにも拘らず、のりくりにしたビジョンを示して、市民からもパブリックコメントを今やっているようでは、いつまでたっても財政は厳しいし、掛川市にその危機感を全く感じない。小学校の統廃合の問題も、10年以上前から見ぬふりをしたり、先延ばしにしてきただけで、統廃合による地域と市役所との揉め事から逃げ続けた結果、より課題が大きくなっただけである。   | 構造改革特別区等は、掛川市が実施することを決めたものではなく、制度上の一例を示したものです。また、学校の在り方については、地域の皆様と共に考えて参ります。                                    |
| 162 |     | 自由意見 | 「おらが地域の学校」がなくなってしまうことに抵抗を感じる人が多くいると思われる。だからこそ、地域の人たちと連携しようということがよくわかった。いち住民として、できるだけ協力したいと感じた。<br>法律を遵守しながら、予算や感情面の整理等についても配慮しながら進めるにあたってはご苦労が多いかと思いますが、応援しております。ご自愛ください。   | 地域との連携が強い小中一貫教育を目指して参ります。  |
| 163 |     | 自由意見 | 「学校が学校として成り立つには」という議論より先に、適正規模のために学校の在り方をどう考え、どのようにしたらいいのかが前提として議論が進められているように思います。本当に財政が行き詰まっているなら、P10「学校配置に向けて考慮すべき事項」などいつている場合ではなくなります。しかし、地域に若者が住み続けられる地域作りを、それぞれのまち協が議論している中で、教育が「適正」「メリット・デメリット」で議論されるのは納得できません。掛川市が提案している「掛川市小中一貫教育推進基本方針」では、メリット・デメリットという言葉は使われていないように思います。しかし、文科省としては、学校規模によるメリット・デメリット（例）を提示しています。これについて、掛川市教育委員会としてどのような見解をもたれるのか知りたいと思っています。 | 平成29年2月28日の「掛川市中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会」からの報告書では、小規模校のメリット・デメリットについて述べられています。方向性を見出すとき、良い面や課題面を総合的に捉えることは必要であると考えます。 |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|------|---|---|
| 164 |     | 自由意見 | <p>旧掛川市街中心部の衰退を食い止めるべく大量の税金を長年に渡って投入したが、衰退の加速は止まらず、一部の人間の利益を与え、公共の利益にはならなかった。時代の流れを理解できないお役所仕事の産物である。ユニーやジャスコが駅前から撤退した時、疑問の声が上がったりしたが、あの時答えが明確に出ていたことを理解すべきである。掛川市において郊外での商業活動の成功が何を意味するのか、掛川市は考えるべきである。民間企業が普通に出した過去の結論を、そしてこれからの商業活動がどうなるのか掛川市は全く捉えていないと言わざるを得ない。過疎を助長し、掛川市を衰退の道に官が導いている。私から以下の提言をしたい。</p> <p>一、インターネット時代では、旧掛川市街の活性化はないので、投資しない。ただし、文化的施設や伝統行事を利用したイベントをバックアップする。</p> <p>一、掛川市は、工業と観光と若者が住みたい街づくりの三つに特化する。行きたい幼稚園や保育園にいつでも入れる状況は、若者の自宅購入の大きな判断材料である。若者が住めば住民税や所得税など長期にわたり得られると同時に工場や観光施設の人材の確保につながる。企業の人員不足の問題がこれからも大きくなる中、若者がいる街は強みである。若者に重点を置いた政策に今転換しなければ掛川駅周辺以外の小中学校の維持は難しくなる。上内田や倉真の若者の人数が非常に少ないが、駅からの距離を浜松市に置き換えてみれば浜松の中心の商業施設や住宅地であり、魅力に溢れている。若者を無視した市政が、上内田や倉真を過疎に追い込んでいることを知るべきであると同時に、小中学校の統廃合に繋がっている。若者を大事にすることも掛川市教育推進基本方針の柱とすべきだ。</p> <p>一、教育委員会のみでの話ではなく、掛川市の各部局が横断的に議論して、相乗効果を出すために仕事をしなければ、もっときつい小中学校の統廃合をしなければならない。</p> | <p>掛川市のことについて真摯に考えていただきありがとうございます。御意見として伺います。</p> |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え  |
|-----|-----|------|---|---|
| 165 |     | 自由意見 | <p>先日、ある見識者の方が、「小規模校はかわいそうだね。いじめがあってもにげることができない」とおっしゃっていました。ある見識者の方は、「小規模特認校を認めたら、障がいや問題のある子どもばかりが学校が増えてしまう。それは普通の子にとって困るだろう。」そういった考え方を見識者の方がもたれているんだなと思いました。私の意見、考えなどは少数の異端な意見であるのでしょうか。皆さん意見はそれぞれで、けれど子どもたちのことを思い考えてくださっていることと思います。私も障がいを持つ子の母親として、子どもの将来を（実際は、今を生きるのに精一杯なのですが）毎日思っています。今後統合ありきで進められていくであろうこの学園化構想ですが、それでも10年くらいはかかるでしょう。きっと私もその頃には今と違う悩みで右往左往していると思います。まちづくり協議会が掛川市でも行われるようになって、「市と市民との協働」の声が上がっています。けれど、その施策とこの学園化構想とはリンクしていないようですね。もし地域から子どもの声が聞こえなくなったら、学校に行けない居場所のない子どもたちの居場所づくりをしたいと思っています。</p> <p>今、子どもたちは大変先生方にお世話になっています。本当に涙が出るくらい感謝しています。丁寧な面談や支援計画を立ててくださっています。ASDと診断されながら、学校、友達、先生が大好きな息子です。地域の方たちにも理解していただき、祭典や行事にも参加できています。それは、学校の先生方が親と子どもの支援をしてくださっているからです。けっして現状に不満があつての意見ではないことだけは御了承ください。</p> | これからの社会を見据えたとき、子どもたちが成長する上で、どのような学校が良いのか、地域の皆様と共に考えて参ります。 |
| 166 |     | 自由意見 | <p>こども園との連携を議論されたい。</p> <p>大須賀地区では、3年後に横須賀幼稚園とよこすか保育園が新たなこども園として合併、新設されると聞いており、先日、候補用地について説明があった。</p> <p>幼稚園だけで考えるのではなく、小学校、中学校との関係を十分考えて、用地選定にあたってほしい。また、時間が大変かかると思うので、地域にも説明や話し合いの場を丁寧に設けていってほしいと考える。</p>   | 御意見として伺います。こども希望課とも連携を密に取って参ります。                          |
| 167 |     | 自由意見 | <p>学園化第2ステージの議論は重要である。一層進めていただきたい。小学校の施設も大変老朽化しており、修繕にお金がかかる。また、運動場が狭く、子どもたちの活動に十分な広さとは言えない。</p> <p>学園単位だけではなく、市全体として、学校数をどのようにデザインしていくかお金と人の問題をもう少し示してもよいのではないかと考える。数十年後の市としての第2ステージ学園化構想のイメージがより伝わるようお願いします。</p> <p>そして、第2ステージについて、結論は出なくても全市で、話し合いをたくさん重ねる必要を感じます。是非、早く地区での話し合いの場を設けてほしいと思います。</p>   | 掛川市としては、現在公共施設マネジメントの検討を始めております。その中の情報を提供して参ります。          |

| No. | ページ | 項目   | 意見  | 市の考え   |
|-----|-----|------|---|--|
| 168 |     | 自由意見 | <p>「学校は地域の太陽」とまで持ち上げておきながら、その太陽がなくなってしまいう地区を作り出す方策は、首をかしげざるを得ない。</p> <p>現今の教育問題の根源はこんなところにあるのではなく、</p> <p>① 小学校の英語教科導入にみられるとおり、教えるボリュームを増大させ、無理やり子供に優劣をつけ、格付けする教育の在り方。</p> <p>② 教員に教育委員会他への提出書類を大量に作らせたり、部活の責任を負わせたり、休校中の研修を増やすなどして、自主的な教材研究や子供とのかかわり時間を保証できない勤務体制。</p> <p>③ 厳しい経済状況等で下校時親が自宅にいない子供が増えているのに、学童保育の体制・施設が遅れ、数時間放置される子供がいる。</p> <p>等の改善が焦眉の急ではないでしょうか。</p> <p>小中学校のほとんどが、地域の緊急避難所になっていると思います。その避難所がなくなれば、地域の安心・安全も損なわれるということだと思います。</p> <p>また、「母校」も無いような地区へのUターンはほとんど期待できず、過疎地域の衰退に拍車がかかってしまいます。</p> | <p>小中一貫教育を推進するために、全ての小中学校をなくし、新たに小中一体校を作るという考えではございません。推進基本方針④にあるように校舎建築に当たっては、市民の皆様との十分な話し合いを行って進めて参ります。</p>      |
| 169 |     | 自由意見 | <p>参考資料の図例は、具体的なイメージがもててわかりやすかったです。市内で全校を一律に同じ型にする必要はなく、地域の特性（物理的条件など）に応じて様々な型が混在してよいと考えます。すでに成果が出ている学園化という中学校区の枠の中で、小中一貫教育の実現を目指すことは大賛成です。</p> <p>今後の小中一貫教育の推進に関しては、将来の掛川市を担う若い保護者の意見を聞く機会が重要であると考えます。20年～50年先を見ながら、地域を支えていく方々になるわけですから。</p>   | <p>施設形態については全市一律な対応は難しいと考えております。既存の中学校区学園を基本とし検討しております。</p> <p>地域での検討に当たっては、入学前の子どもを持つ皆さんにも是非参加をしていただきたいと思ひます。</p> |
| 170 |     | 自由意見 | <p>市内小規模校が、保護者・地域の大きいなる支えのもと、小規模ならではの実りある教育を実践できたことは言うまでもありません。一方、人口減少や高齢化等に伴う税収減、学校施設の老朽化による維持管理費用を考えると31校を現状のまま維持することは不可能です。</p> <p>今、この期によりよい方策を立て進まなければ子どもたちに大きな宿題を残してしまうことになりかねません。</p> <p>他県出身ですが、縁あって掛川で働き、子育てをしてきました。掛川は、子どもたちが学び成長することに適した素晴らしい歴史と文化、自然あふれる街です。何よりここに暮らす掛川市民、あたたかく実直で人も物も大切にす掛川の人々こそ素晴らしい財産です。学校は、そうした「人」を育てる大切な場です。</p> <p>子どもたちのことを第一に考え、地域の声を聞きながら、新しい学校を皆で創造していくことを切に願ひます。</p>   | <p>子ども目線に立って子どもたちの未来のためにどんな学校づくりを目指していけば良いかを大切にす、学校の在り方について地域の皆様と考えて参ります。</p>                                      |

| No. | ページ | 項目   | 意見   | 市の考え  |
|-----|-----|------|--|---|
| 171 |     | 自由意見 | 英語に関しては、小学校に導入された頃とはかなり大きく子どもたちがかわってきた。英語に対してのハードルもずいぶん低くなったし、中学生レベルの会話、単語の読みができています。スムーズな接続には、小学校の英語教師が中学と共通であるなど人的環境（行政面）も必要だと思う。  | 未来を生きる子どもたちにとって英語教育は大切です。英語教育のカリキュラム、教科担任制の在り方等、研究を進めて参ります。             |
| 172 |     | 自由意見 | 数年前から合併の話が出ていたので、いつかはそれが現実になるのかと思っていましたが、やはり自分が通った「小学校」がなくなってしまうのは寂しく感じます。<br>小規模校ですが縦の繋がりが地域との繋がりが、先生方との関わりがとても良く、自分の子どもも安心して通わせることが出来ています。小中一貫になった時、それがどのようなようになるのか少し不安に思います。  | 子どもたちのために何が大切かを考えて、地域の方々と協力して参ります。                                      |
| 173 |     | 自由意見 | 今一番課題であると感じているのは、学園化と協働のまちづくりの関係です。コーディネーターの立ち位置も微妙で、小学校区内に大きく2つのまちづくり協議会があり、大きく組織が異なります。これまでのコーディネーターは片方の地区から選出され、本年度から新たに別の地区から選出されました。コーディネーターとして、一生懸命勤めようとしてくださっていますが、協働のまちづくりにおけるコーディネーターの立ち位置がありません。それは、どちらの地区も同じです。そのような中で、学園化という取組、協働の街づくりがそれぞれ進んで行くことは学校現場からすると大変困ります。それをきちんと繋げ、学校が二つの地区やコーディネーターの三者に話をしなくてもすむようにできたら・・・と思っています。地区の中（協働のまちづくり協議会）にコーディネーターを置き、現在のコーディネーターは無くしてもよいと思っています。教育委員会としても難しい面があるかもしれませんが、しっかり市役所内ですっきりとさせていただけるとありがたいと思っています。学園化が先にスタートし、協働のまちづくりが後からスタートしているので無理はありませんが、だからこそ、今すっきりさせる必要があると思います。学校でそこは上手にやるというのは無理があります。それをせずして学園化の第2ステージを進めるのは、机上の空論くらいに私は感じています。コーディネーターの役割も学園によってかなり違うということもわかっていると思います。が、本当に現場は大変なんです。地区にも学校や中学校区ごとにも、事情が大きく異なる面があり、そこを何とか繋げようと試みっていますが、現場でなくもっと上のところで繋げることをぜひやっていただきたいです。 | 子ども育成支援協議会とまちづくり協議会との関係、そして、コーディネーターの立ち位置等について、学校及び関係団体、担当課と検討して参ります。   |
| 174 |     | 自由意見 | 小中学校の給食の「自校方式」を復活し、熱源も電気・ガス・灯油・自然エネと多様化してください。万が一の避難時に最低限の調理器具や食器、携帯電話の電源等が備わっていれば安心感は増大します。   | 掛川区域の調理場は、老朽化に伴い、9月より給食センターから給食を配達します。なお、掛川市では、安心・安全でおいしい給食の提供に努めて参ります。 |

| No. | ページ | 項目   | 意見   | 市の考え   |
|-----|-----|------|--|--|
| 175 |     | 自由意見 | 掛川市内の保護者を（幼～中まで）集めて全体で話してみてもいいかと思うので。子どもたちの意見も（幼児は無理かな？）考えも聞いてみたいです。 | 地域により様々な状況がありますので、全市一律な対応は難しいと考えております。子どもたちを第一に考えてより良い手法を地域の皆様と検討して参ります。 |